



LINE BARRELS
MECHANICS



鉄のラインバレル
公式オールカラーメカ設定資料集

月刊チャンピオンRED
2014年6月号 別冊付録

分売不可

CONTENTS

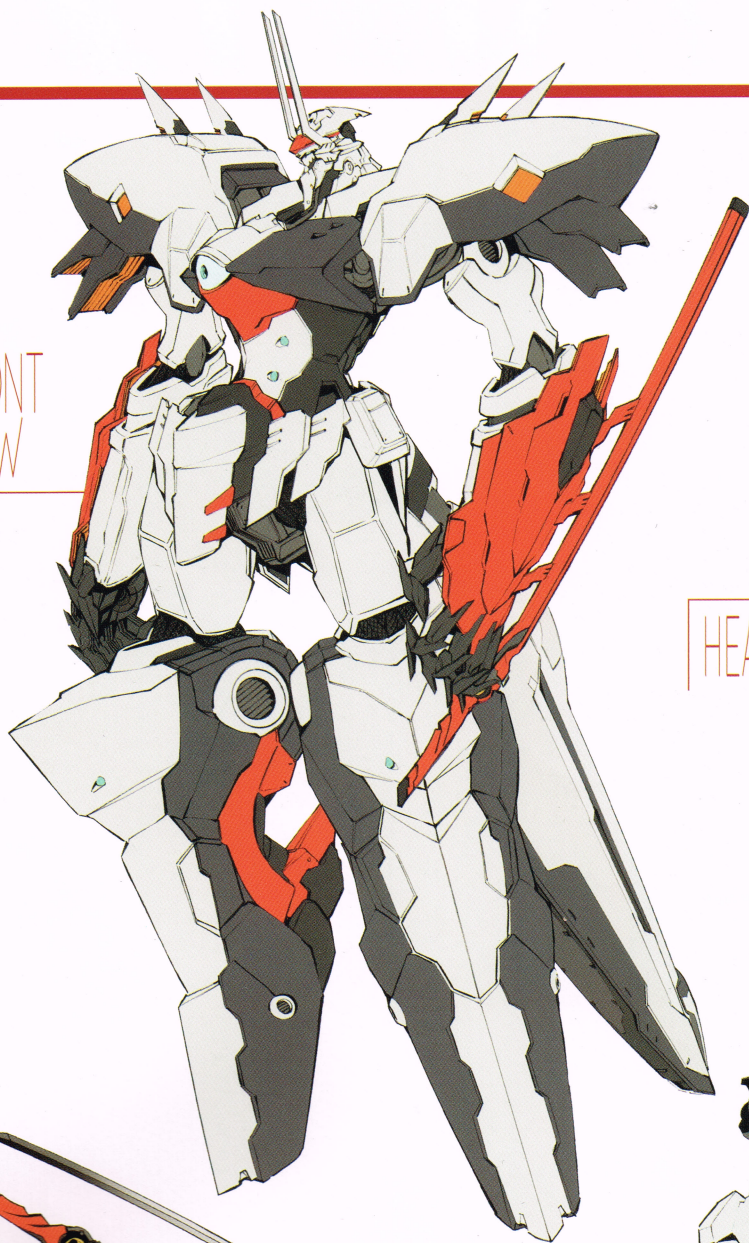
	LINE BARREL	02
	LOST BARREL	05
	VERDANT	06
	HIND-KIND	08
	APPARITION	09
	DECEIVE	10
	TALISMAN	11
	PRETENDER	12
	GLAIVE-NEIDR	14
	JUDA	16
	SHANGLI-LA	17
	PAINKILLER	18
	ARMA	20
	JINRAI	26
	PALADIN	27
	HUMANOID	28
	THE RAIL-SPLITTER	30
	ROVE BARREL	31



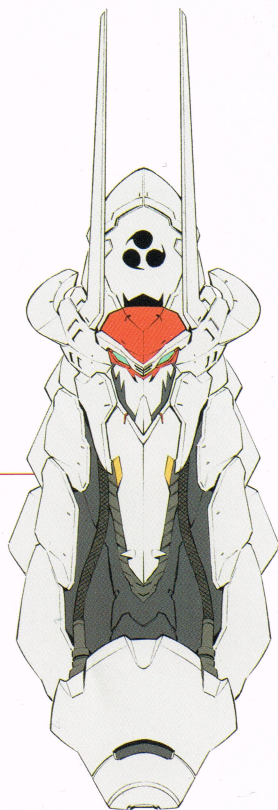
LINE BARRELS MECHANICS

鉄のラインバレル
公式オールカラーメカ設定資料集

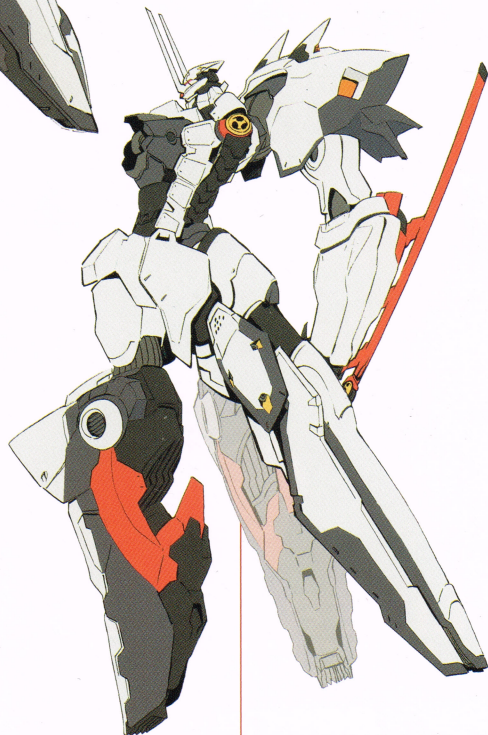
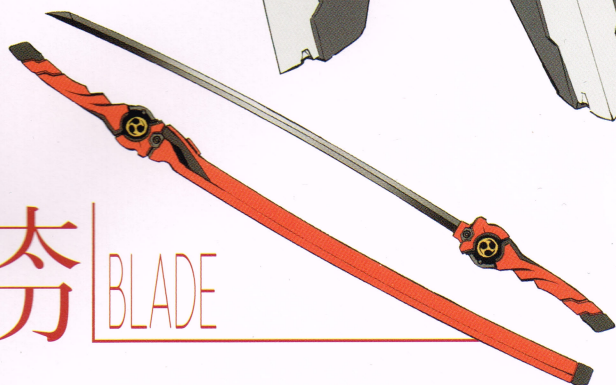
FRONT
VIEW



HEAD



太刀
BLADE



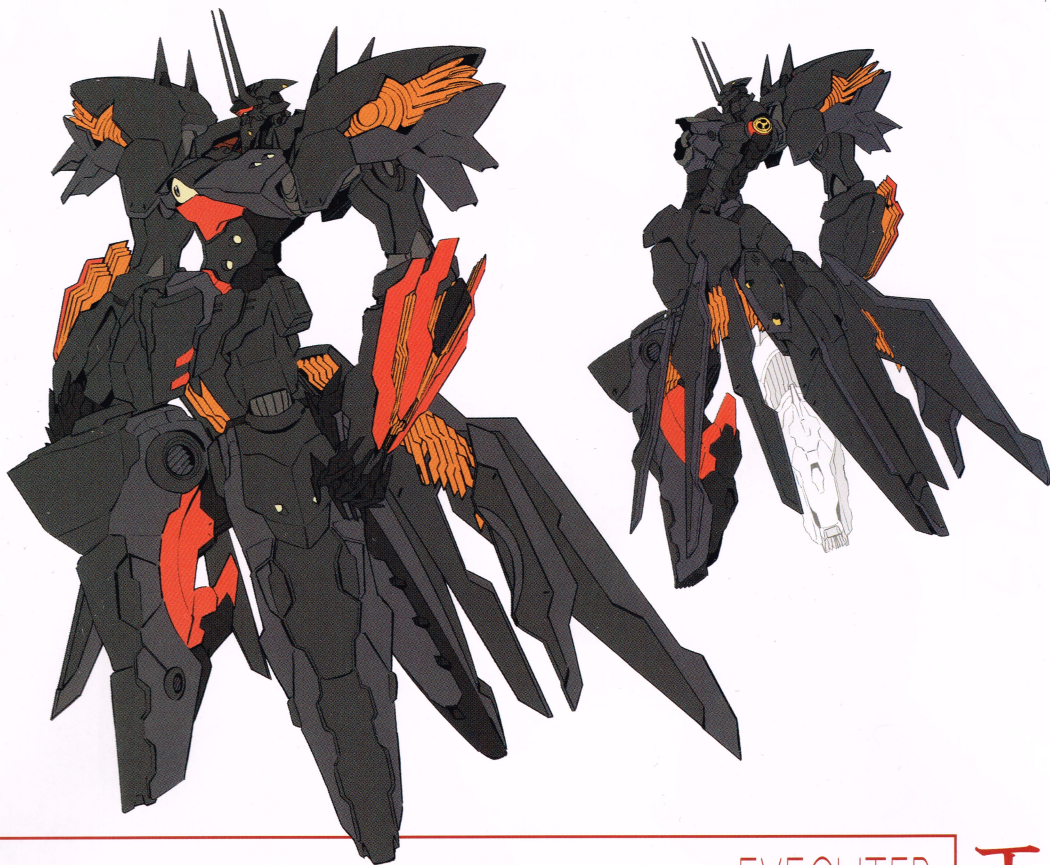
REAR
VIEW

主人公、早瀬浩一が操る二本の角を持つマキナ。近距離戦闘に特化した機体であるが、長距離戦も想定した固定武装をテールスタビライザーに隠し持つ。通常戦闘では主に両下腕に各一本ずつ装備されている太刀を使用する。

ラインバレル・オーバーライド

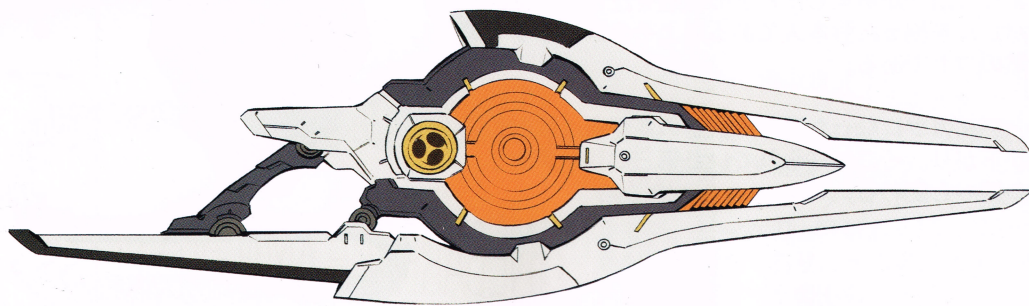
LINEBARREL-OVERRIDE

ラインバレルのもう一人のファクターである城崎絵美が搭乗したことで見せた形態。連続転送や機体色が黒く変化したことに加え、グラン・ネイドル戦で見せた超圧縮転送フィールドなど、ラインバレルのスペックは未だもって未知の領域である。



EXECUTER

執行者と名付けられたラインバレル専用ビーム兵器。本来は長距離攻撃用のビーム砲だが、使い方の解らなかった早瀬浩一は常に出力を最大にし、長大なビーム刀として使用していた。普段はテールスタビライザーに収納され、使用時は補助アームにより受け取り可能位置まで移動する。



エグゼキューター

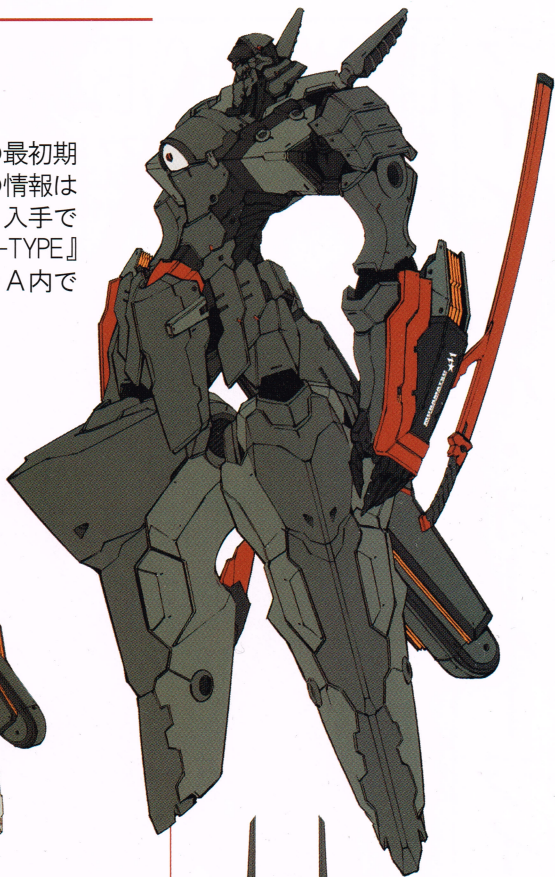
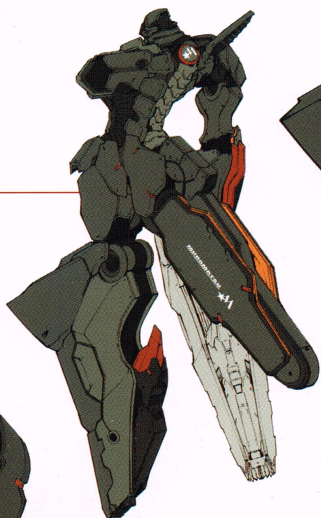
ラインバレル LINEBARREL

プロトタイプ・ラインバレル

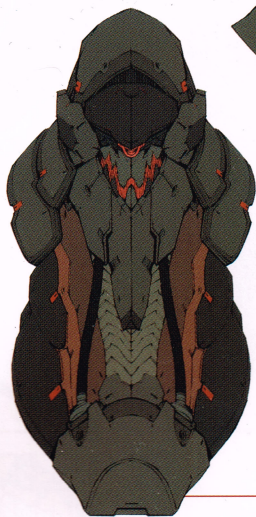
LINEBARREL - PROTOTYPE

本機は城崎天児が造り上げた、ラインバレルの最初期の状態と思われる。現段階で入手できた本機の情報是非常に少なく、早瀬浩一の証言とサブ電腦より入手できた僅かな情報のみである。その中に『PROTO-TYPE』と云う表記が確認できたことから、以降JUDA内ではこの状態を『試作型』と呼んでいる。

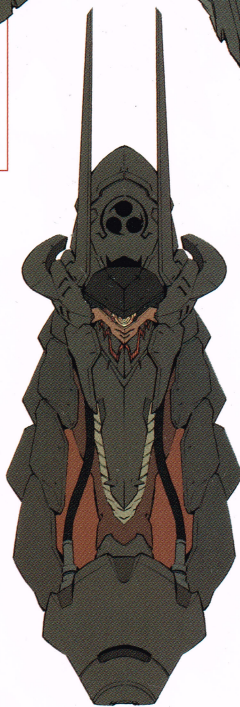
REAR VIEW



FRONT VIEW



HEAD



ラインバレル・アマガツ

真のファクターである城崎天児が目覚めたコトで見せたラインバレル本来の姿であり、以降この状態はラインバレル・アマガツと呼ばれる。ラインバレル（天児）の目的であるマキナ殺しに加え、ファクターとしての慣れにより、浩一が搭乗したときの状態を圧倒的に上回るが、それはラインバレルを創った張本人である以上そのスペックも熟知している故、当然のコトである。

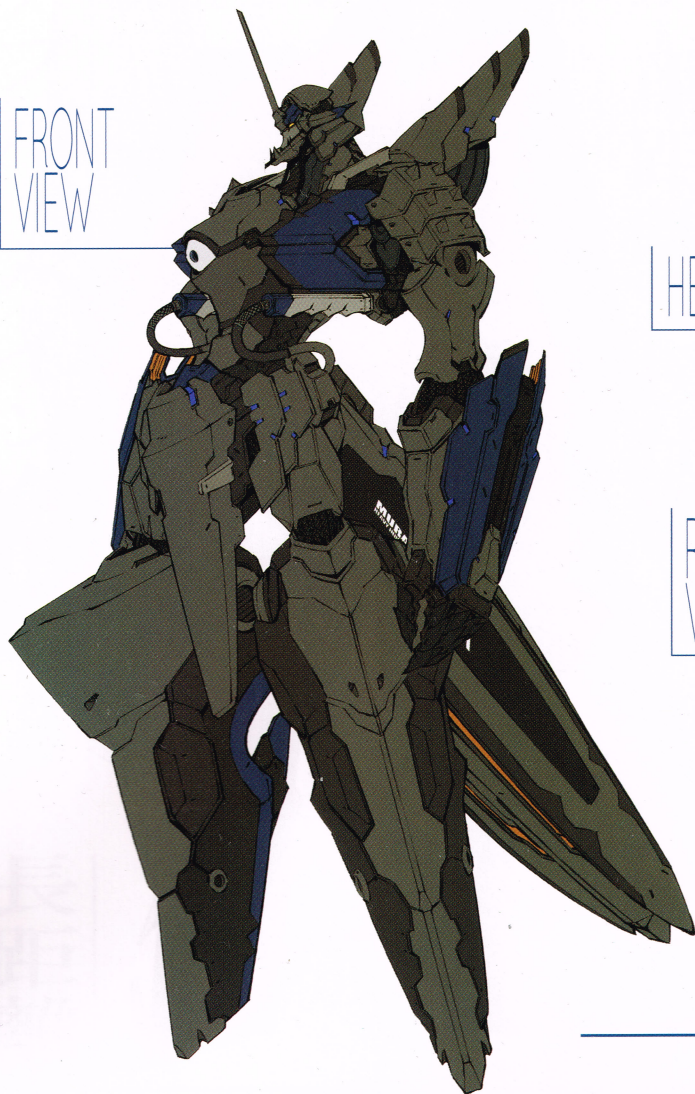
ラインバレル・アマガツになった際、外観上の変更点は頭部のみとなる。額の装甲が下がり、そこに守られていた第三の目が露出し、二つ目の姿から一つ目へと変わる。

LINEBARREL - AMAGATSU

LOST BARREL ロストバレル

元加藤機関四番隊長、沢渡拓郎の操るマキナ。本機はその外観からも分かる通り、ラインバレルの同型機である。その為、外観を含めたそのほとんどがラインバレル試作型と共通している。しかし、性能そのものに関して言うならば、ラインバレルとはまた違った、別ベクトルのピーキーさを持つ機体である。主武装として両脇にマウントされたビーム刀を使用する。

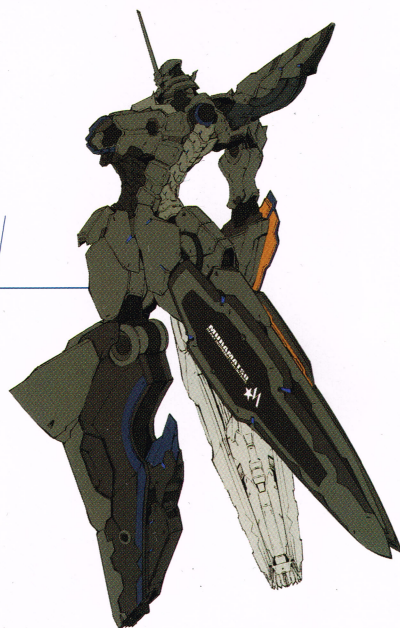
FRONT
VIEW



HEAD



REAR
VIEW



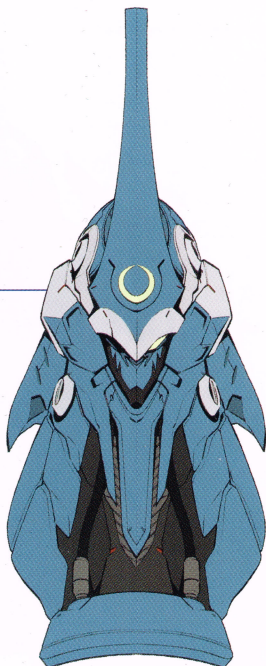
BEAM BLADE

ロストバレルが持つ試作型ビーム兵器。一見、本機の後継機であるラインバレルが持つエグゼキューターに比べ小型に見えるが、ビーム刀と呼ばれる柄の部分単なる出力機であり、その本体はテールスタビライザーそのものである。

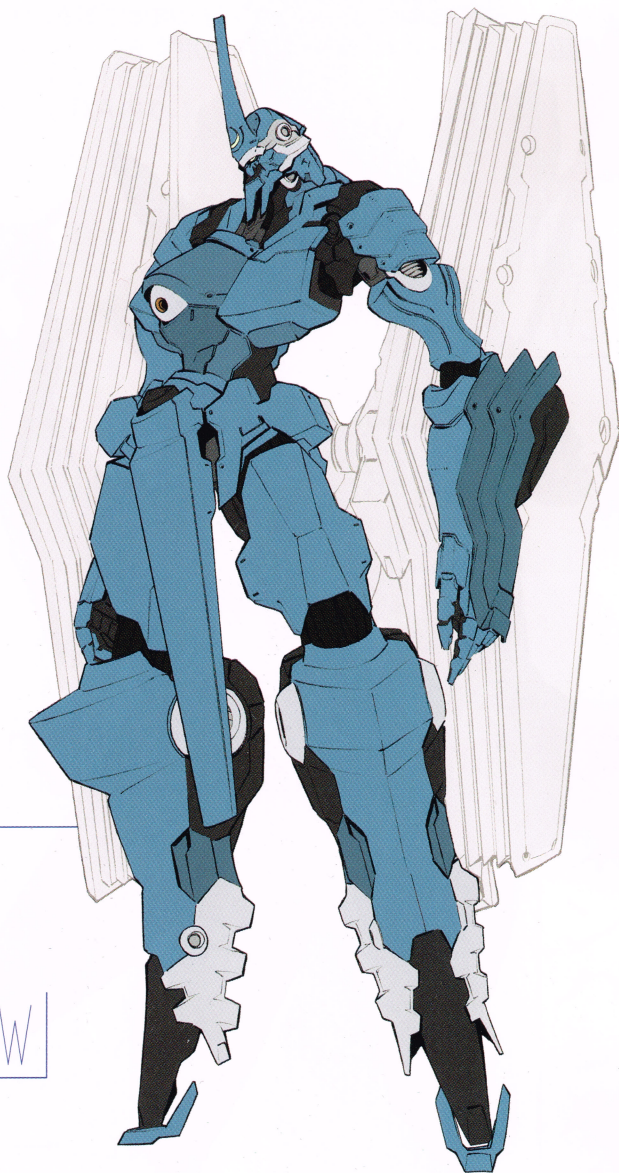
ビーム刀

ジュダコーポレーション特務室室長である森次玲二の操るマキナ。通常戦闘では主にヴァリアブル・バインダー内に収納されている太刀を使用する。

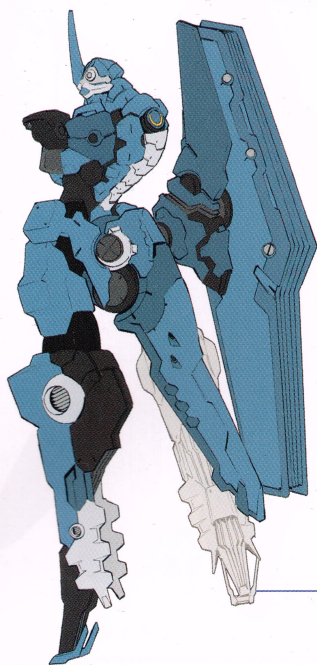
HEAD



FRONT VIEW



REAR VIEW



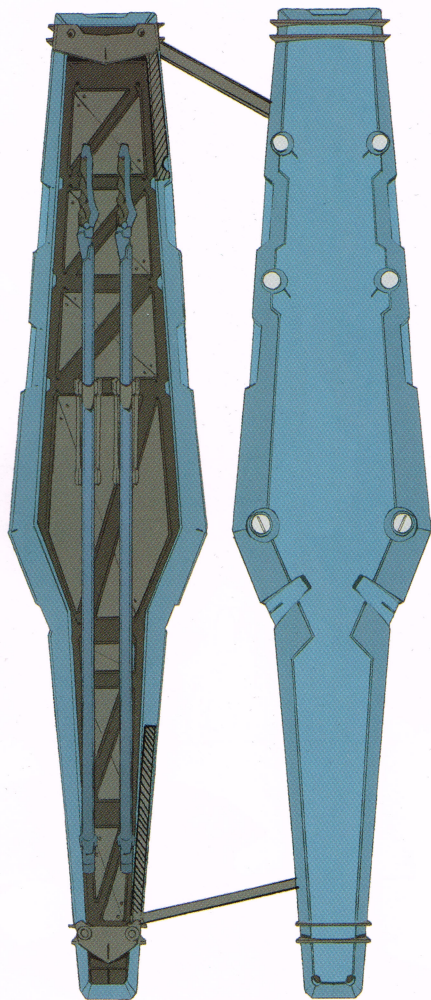
本機体の最大の特徴はマルチパーパスユニット (M.P.U) を持つテールスタビライザーである (正確にはこのスタビライザー自体がM.P.U)。ユニットに設けられたハードポイントに様々なオプションを装着することで、状況に応じ、近～長距離戦、支援、早期警戒など、その機体特性を変える事が出来る。また、外観上の違いはあるが、内部骨格やナノセラミック装甲などの基本構造はラインバレルと同じと思われる。そのためか、頭部構造や各パーツのシルエットは、現存しているマキナの中で最もラインバレルに近い。これらのことから、本機はラインバレルをもとに造られた汎用量産型と推測される。

VERDANT ヴァーダント

ヴァリアブル・バインダー

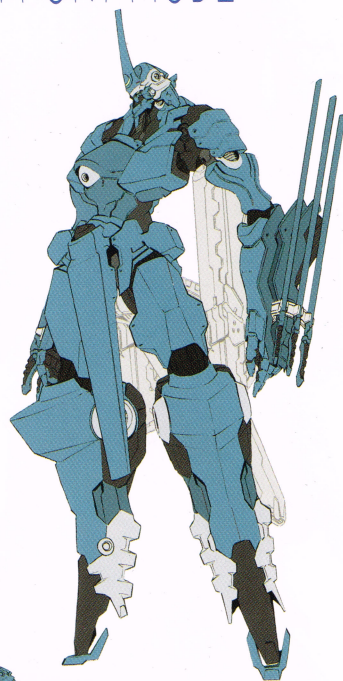
VARIABLE BINDER

マルチパーパスユニットに装着されたヴァーダントの基本兵装。通常は各バインダー内に2本ずつ、計16本の太刀が収納されているが、バインダー内を変更することで、武器や支援物資などの搬送にも使われる。各バインダーはリニアールにより、安定した高速展開が可能。そのため、緊急時には簡易的な盾として利用することもある。当然のことだが、高速移動時の機体制御用バインダーとしての役割も担っている。



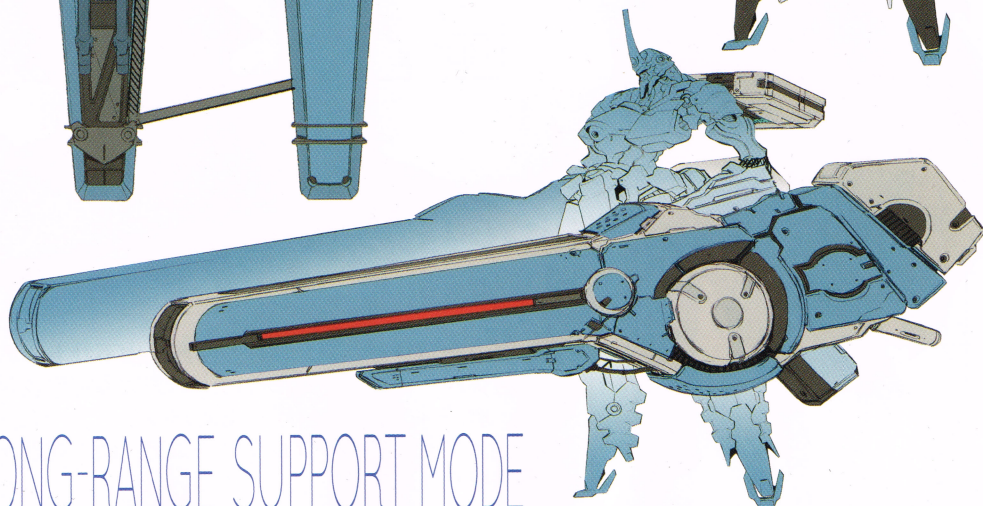
中距離支援仕様

MID-RANGE SUPPORT MODE



長距離支援仕様

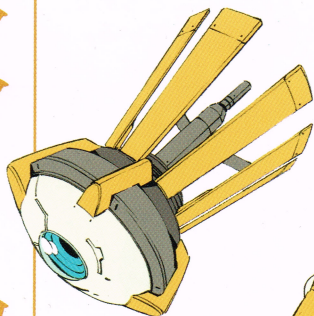
LONG-RANGE SUPPORT MODE



ハインド・カインド HIND-KIND

リフレクター・コア

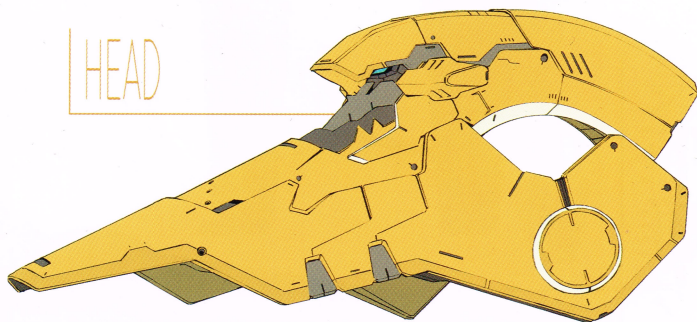
REFLECTOR
CORE



FRONT VIEW



HEAD



REAR VIEW

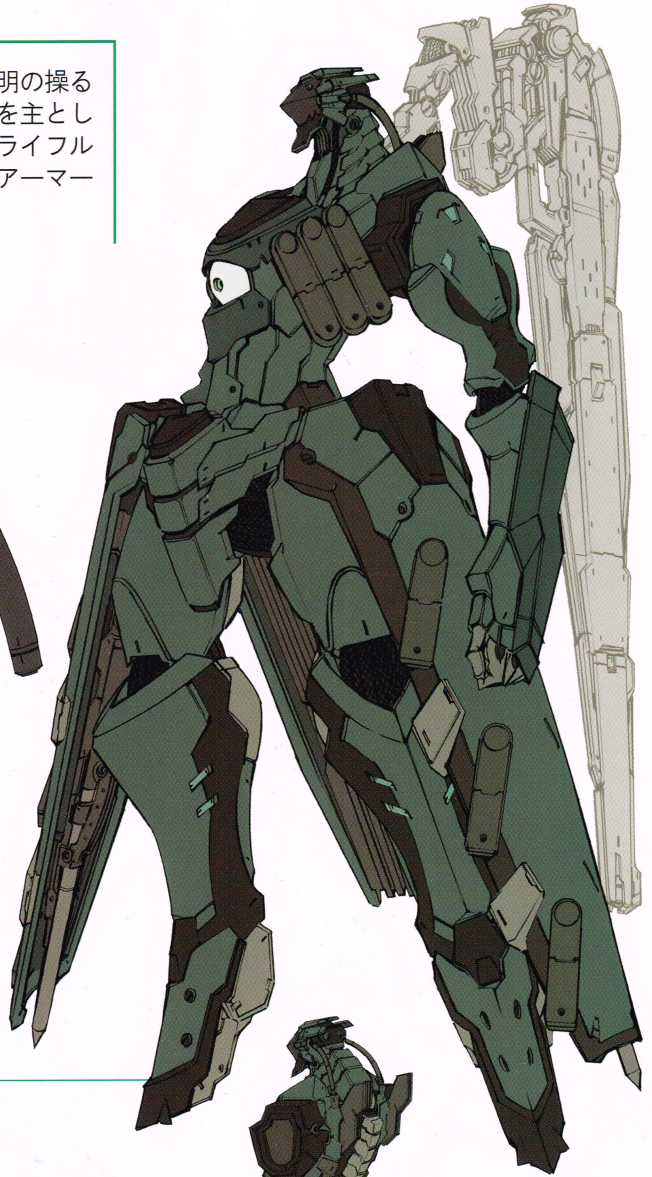
ジュダコーポレーション特務室所属、山下サトルの操るマキナ。その巨体から想像できるように、本来は長距離攻撃用の機体である。戦闘では主に抜き手であるバレットアーム、レーダー兼高性能スキャナーのリフレクターコア、両下腕部から高速発射する鉄杭を使用する。

APPARITION アパレシオン

ジュダコーポレーション特務室所属、矢島英明の操るマキナ。本機は電磁迷彩を備え、狙撃や奇襲を主とした隠密機である。主に背面に接続された専用ライフルを使用し、状況に応じてハンドガンやサイドアーマー内にマウントされている直刀等も使用する。



HEAD

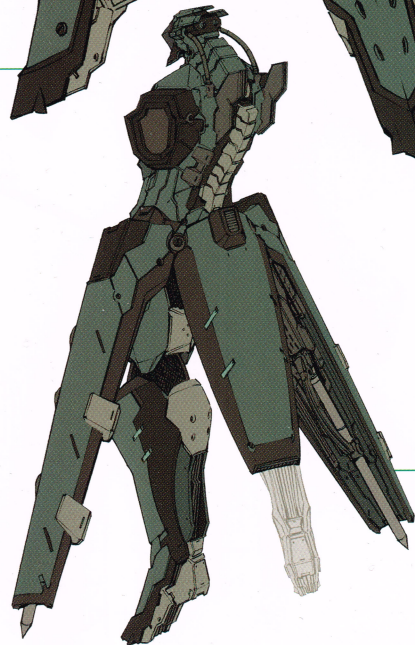


FRONT VIEW

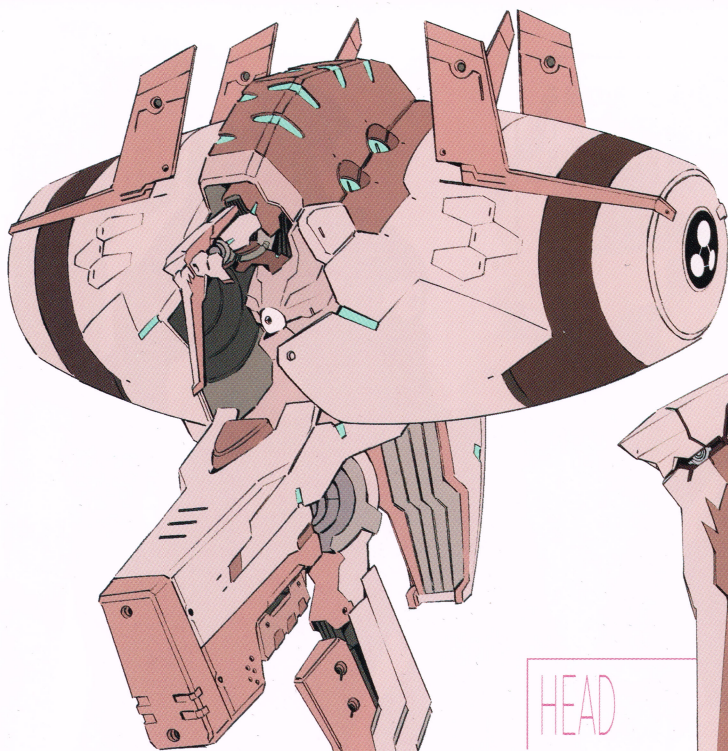


長距離ライフル

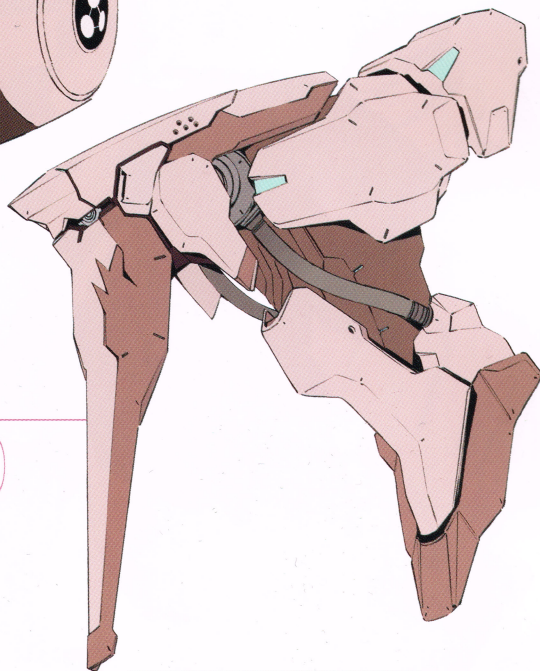
LONG-RANGE RIFLE



REAR VIEW



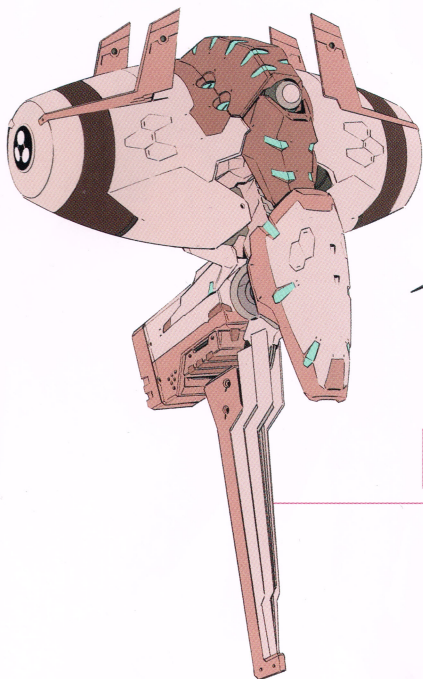
FRONT VIEW



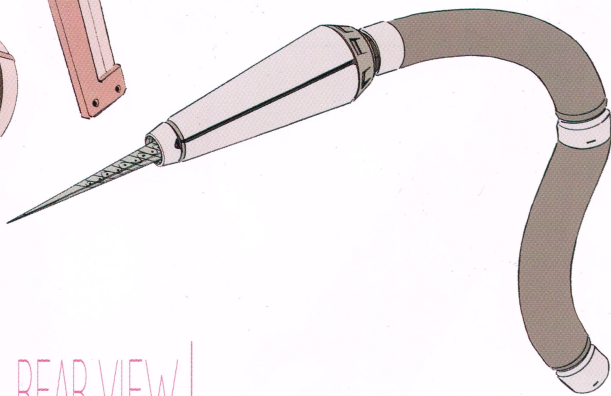
HEAD

NERVE CRACK

ナーブクラック



REAR VIEW

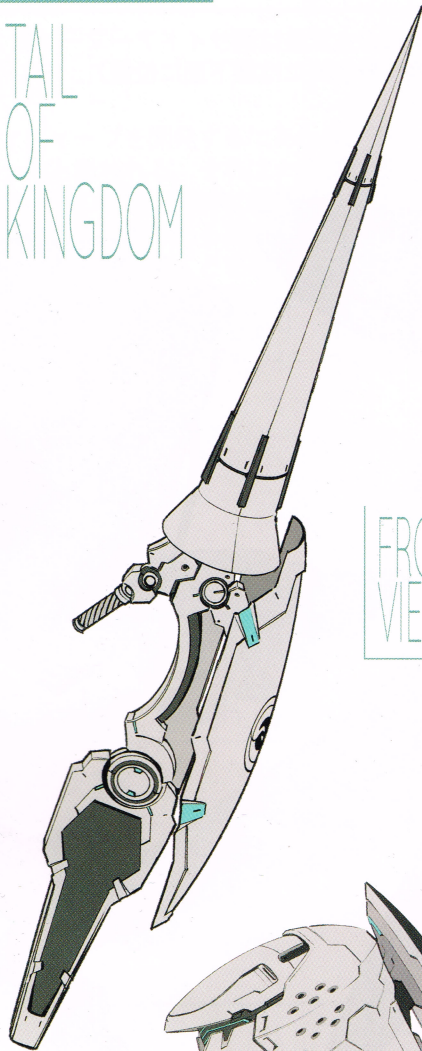


ジュダ特務室所属、遠藤イズナ・シズナの操るマキナ。左右の肩に付けられた巨大なユニット内にナーブクラックと呼ばれる対マキナ有線伝達神経破壊・改竄針を片側6本、計12本持つ。

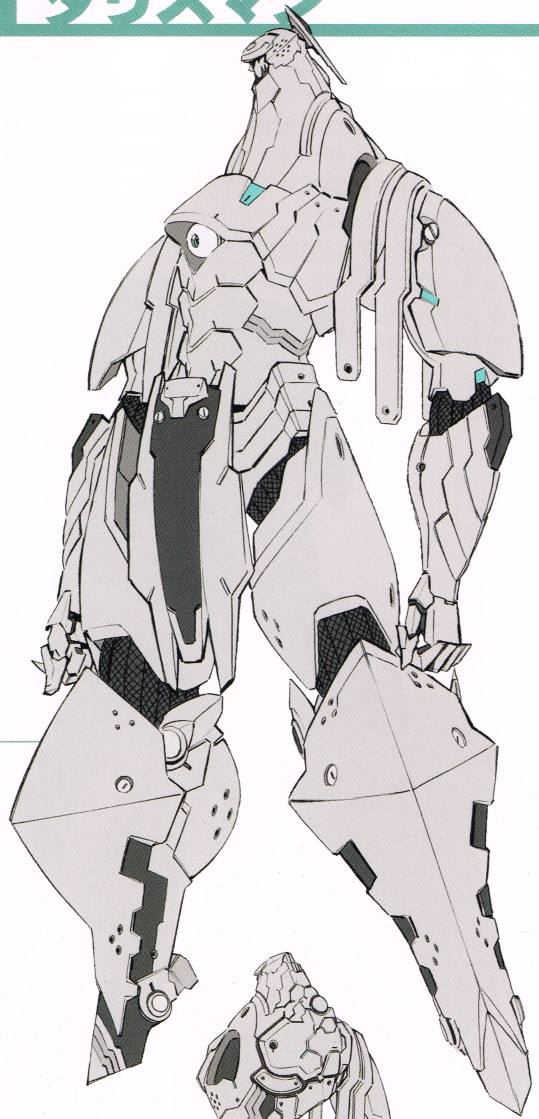
TALISMAN タリスマン

テール・オブ・キングダム

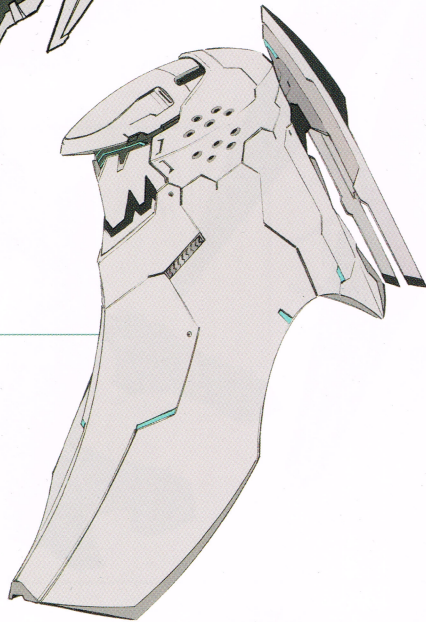
TAIL
OF
KINGDOM



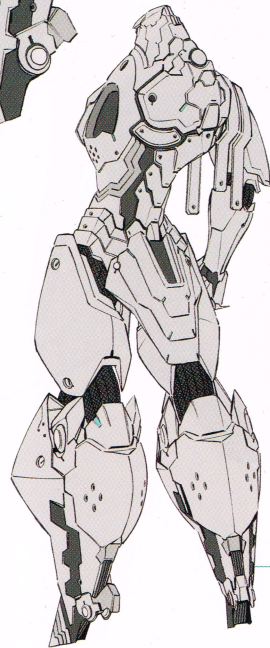
FRONT
VIEW



HEAD



REAR
VIEW

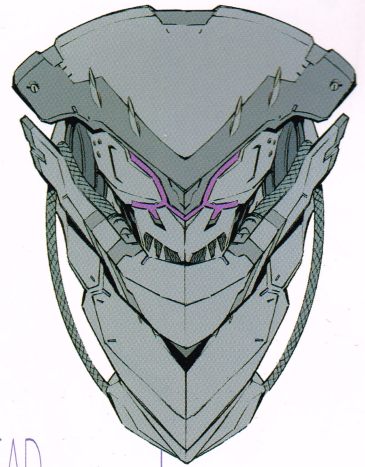
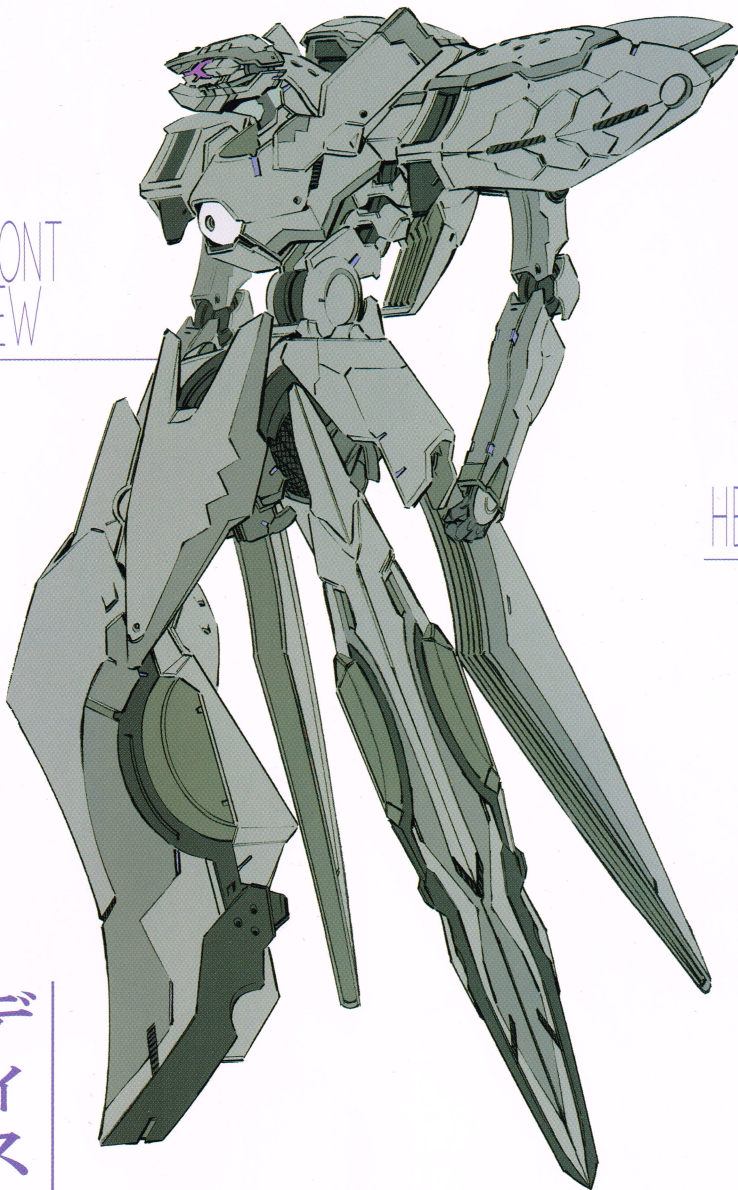


ジュダコーポレーション特務室所属、中島宗美の操る白銀のマキナ。戦闘ではリアアーマーにマウントされた槍『テール・オブ・キングダム』を使用する。

プリテンドー PRETENDER

キリヤマ重工、前社長である桐山英治の操るマキナ。本機の主武装は両サイドアーマーに対マキナ用ナイフを各一本、背面にミサイルユニット（飛行形態時には機下面に位置）、そして両脚部側面に無線式ナーブクラックを持つ。

FRONT VIEW

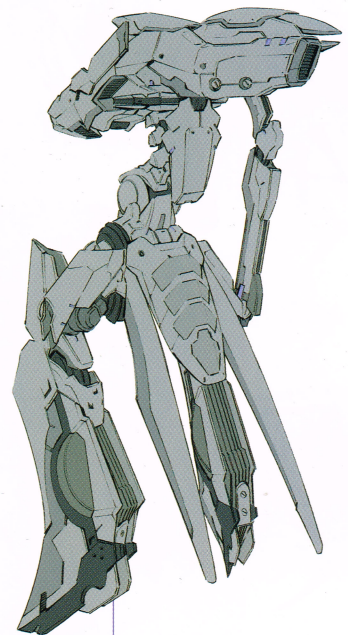


HEAD

デイスィーブ IV

DECEIVE IV

本機体の正式名称はデイスィーブIV、即ちデイスィーブシリーズ4番目の機体であり、デイスィーブの持つ機能を凌駕し、非戦闘型であるマイナス面を補った正統な後継機である。

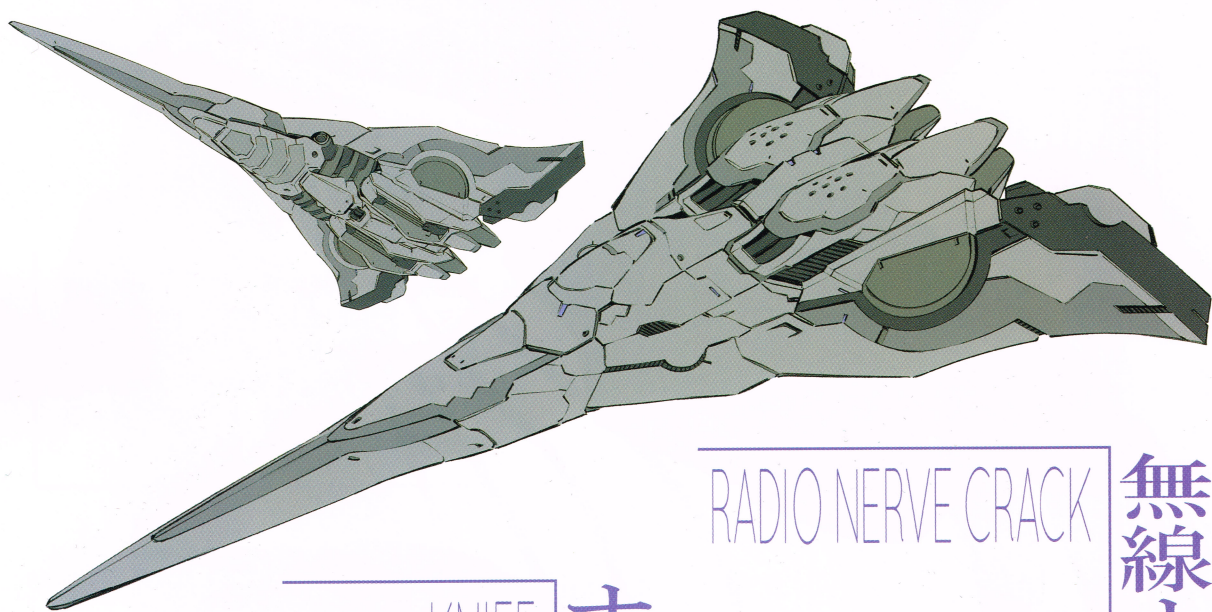


REAR VIEW

飛行形態

FIGHTER

ディスィーブを開発するにあたり、恐らく機体特性として飛行ユニットであることが念頭にあったと思われる。それはナーブクラックと云う極めて特殊な機能を主武装に備えたことにより、その制御と同時に最低限の機体制御などを必要とされることから、対マキナ戦に於いて比較的安全圏である高度からの使用も想定して造られたのだらうと推測されるからである。前線に配備されることを想定していないディスィーブだが、一撃離脱、または前線での戦闘を可能としたのなら、その機能は存分に発揮されるであろうことは容易に想像できる。それを可能としたのが本機であり、非戦闘型のディスィーブに対し、戦闘型として開発されたディスィーブがこのプリテンダーである。

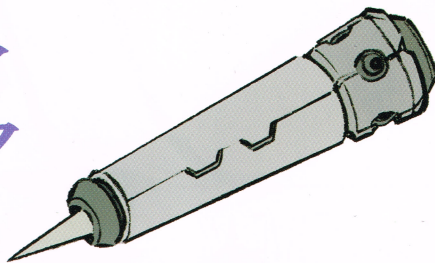
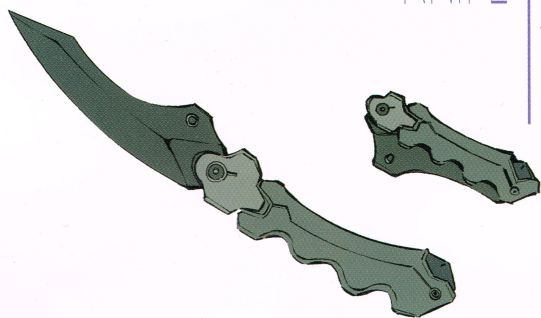


RADIO NERVE CRACK

無線ナーブクラック

KNIFE

ナイフ



ナーブクラックを無線にすることで、本機はディスィーブに比べ小型になり、飛行ユニットとしての特性は変形機構で補うことに成功した。当然のことだが、飛行形態は単なるオマケではなく、最大速度マッハ3.7と、戦闘機としても十分に通用する。



FRONT
VIEW

加藤機関一番隊隊長、菅原マサキの操るマキナ。本機体は豊富な武装や機能を巨大な本体内部に隠し持つ都市殲滅型マキナである。機体後部に大型ブースターを3基搭載し、巨体ながらも高速戦闘を可能としている。



格闘戦形態

COMBATIVE MODE

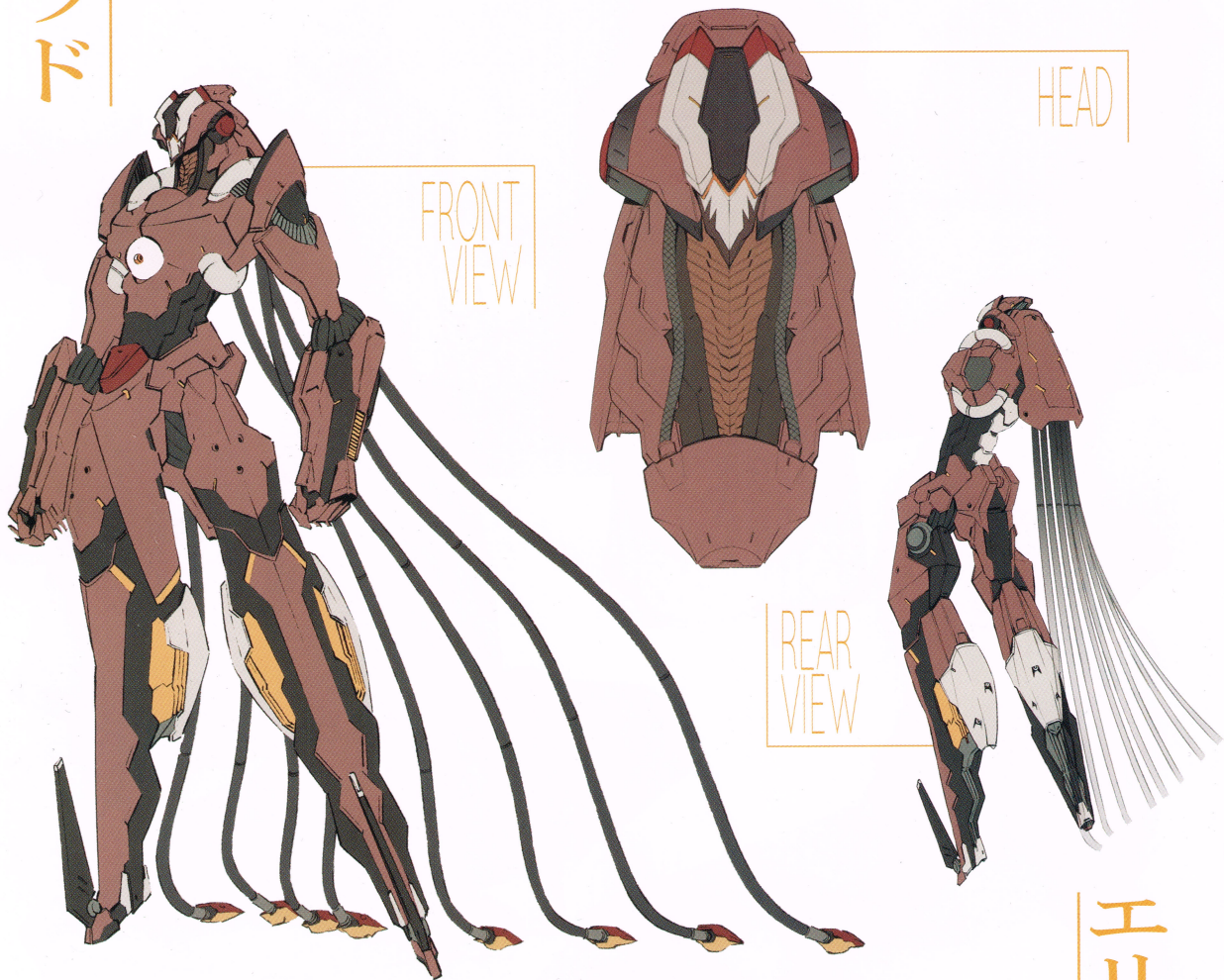
本機は本体内部に持つ様々な武装や機能に合わせ、その姿を変形させる。劇中で見せた姿はその中のひとつの格闘戦形態である。機体底面にある巨大なバンダーが変形し脚部（ランディングギアの役割も担う）となり、機体側面からは巨大なマニピレーターが出現する。

GLAIN-NEIDR グラン・ネイドル

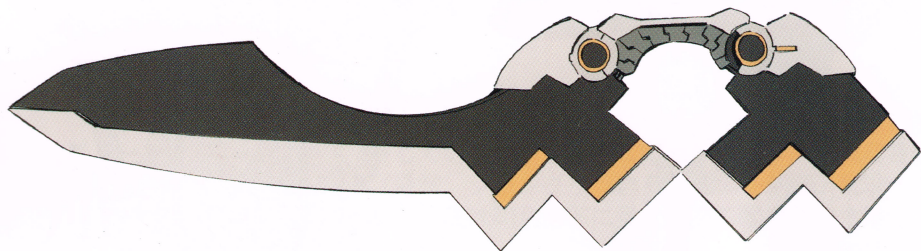
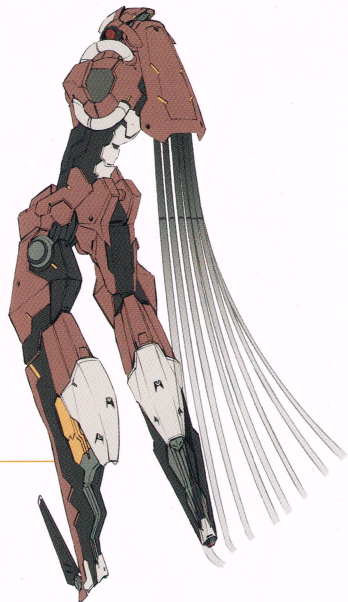
ネイキッド

NAKED

本体のほぼ中央にマウントされている制御ユニット。通称ネイキッドと呼ばれるこの制御ユニットは単体での戦闘も当然可能であり、その機体性能は決して他のマキナにも引けを取らない。後頭部から伸びる八本のケーブルは本来スタビライザーであるが、本体マウントの際にはコネクタケーブルとなる。主武装として特殊な大型刀・エリミネーターを持つ。



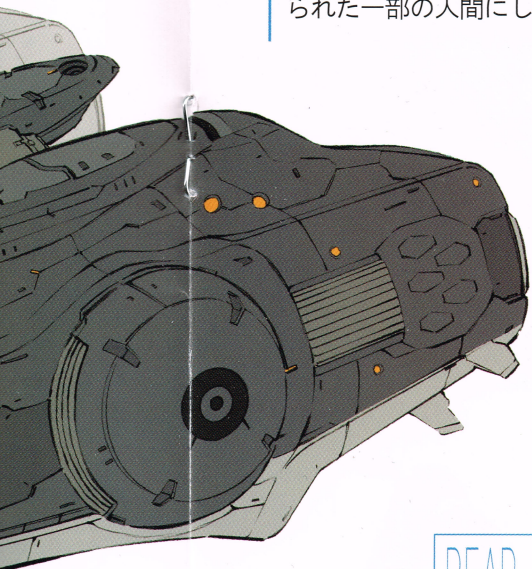
HEAD



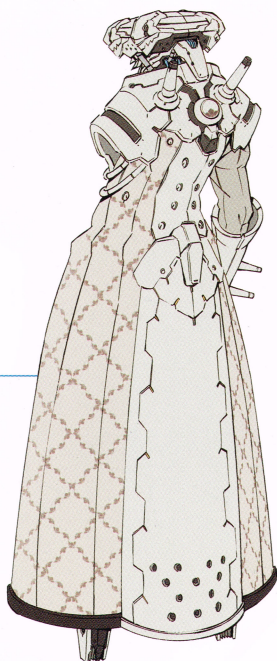
ELIMINATOR

エリミネーター

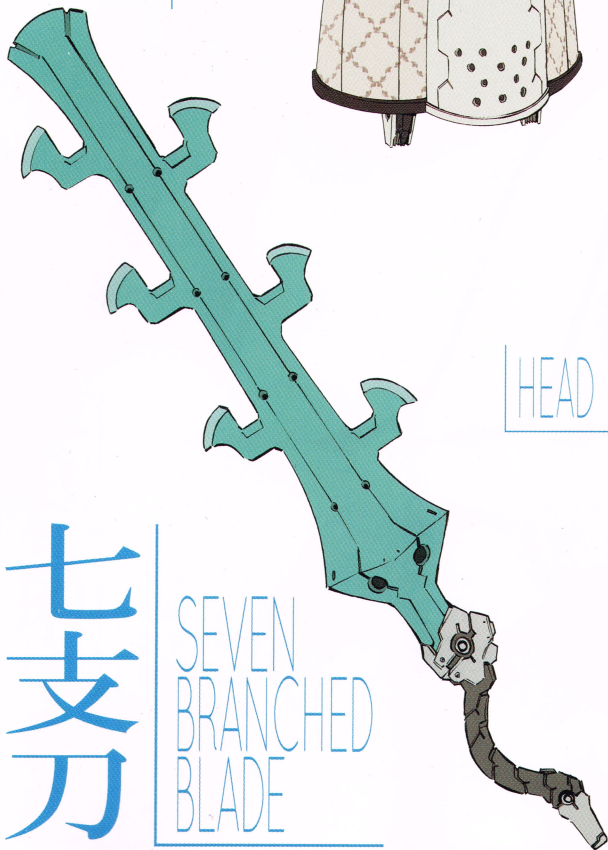
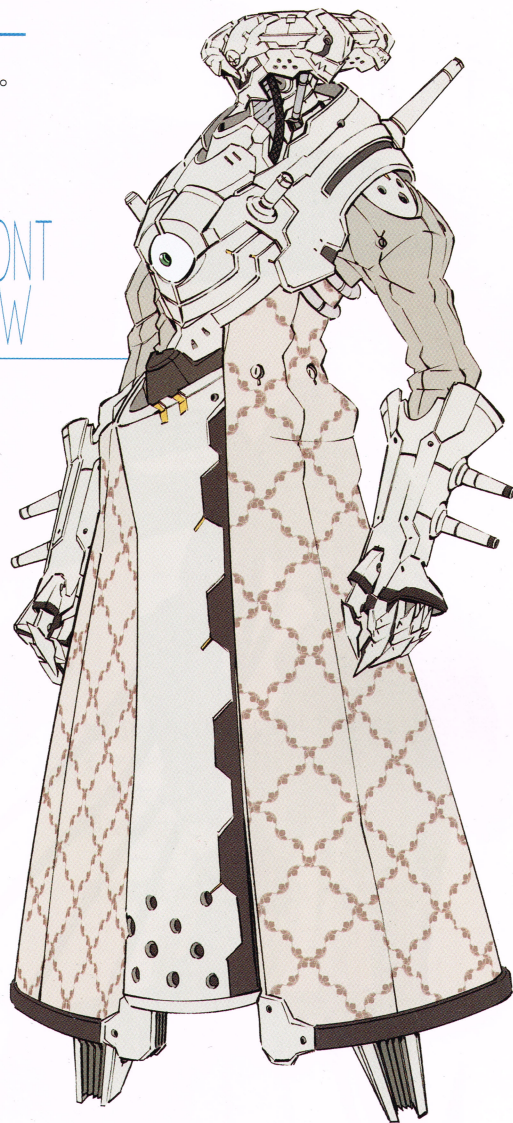
ジュダコーポレーション社長である石神邦生の操るマキナ。
用途、機能等その殆どが不明の機体であり、存在自体も限られた一部の人間にしか知られていない。



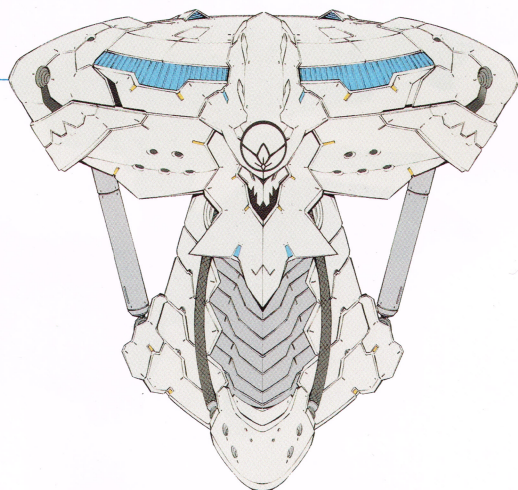
REAR VIEW



FRONT VIEW



HEAD



七支刀

SEVEN BRANCHED BLADE

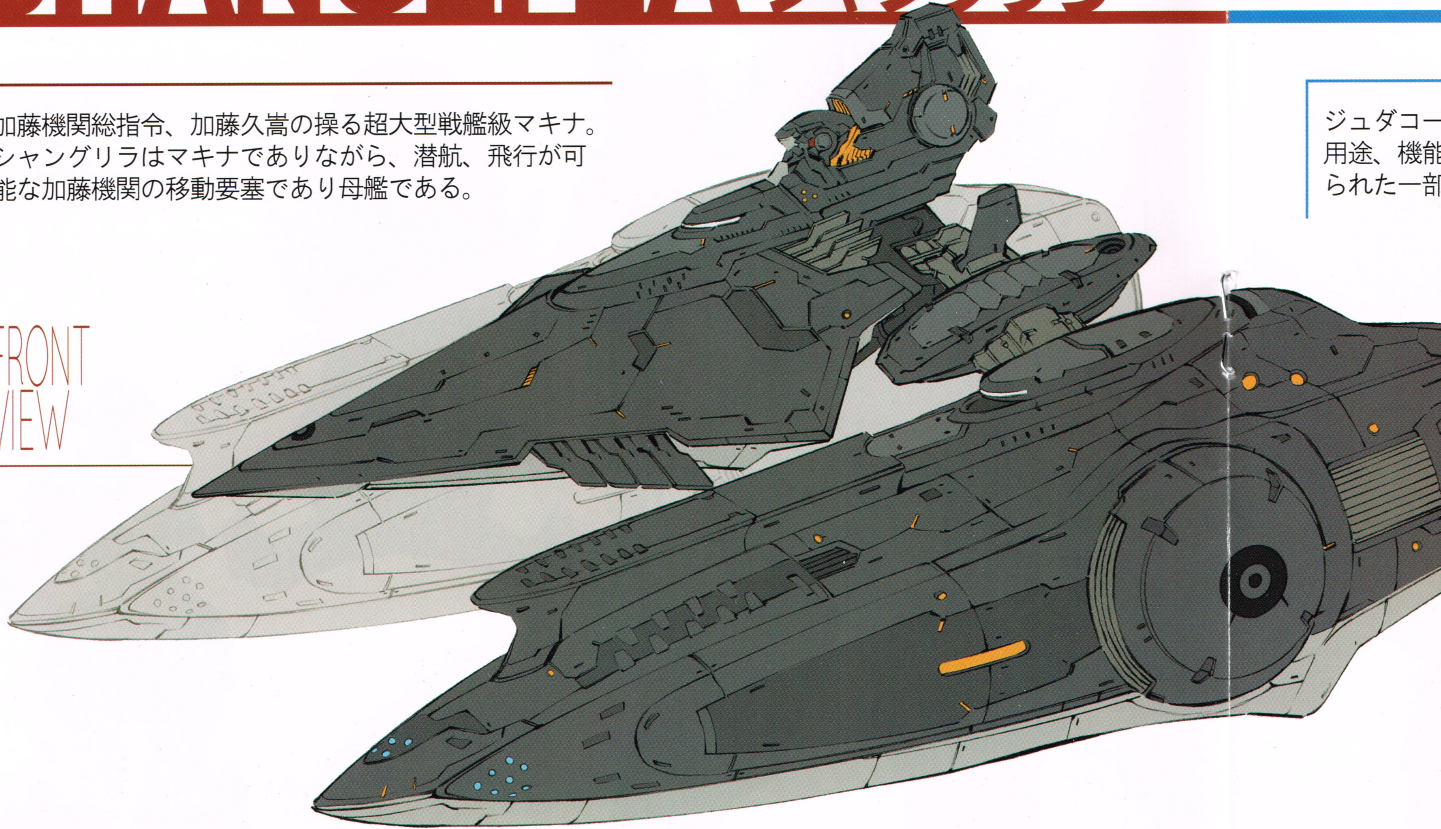
橋も存
はない
そのた
ている。

SHANGLI-LA シャングリラ

加藤機関総指令、加藤久嵩の操る超大型戦艦級マキナ。
シャングリラはマキナでありながら、潜航、飛行が可能
な加藤機関の移動要塞であり母艦である。

ジュダコー
用途、機能
られた一部

FRONT
VIEW



REAR VIEW



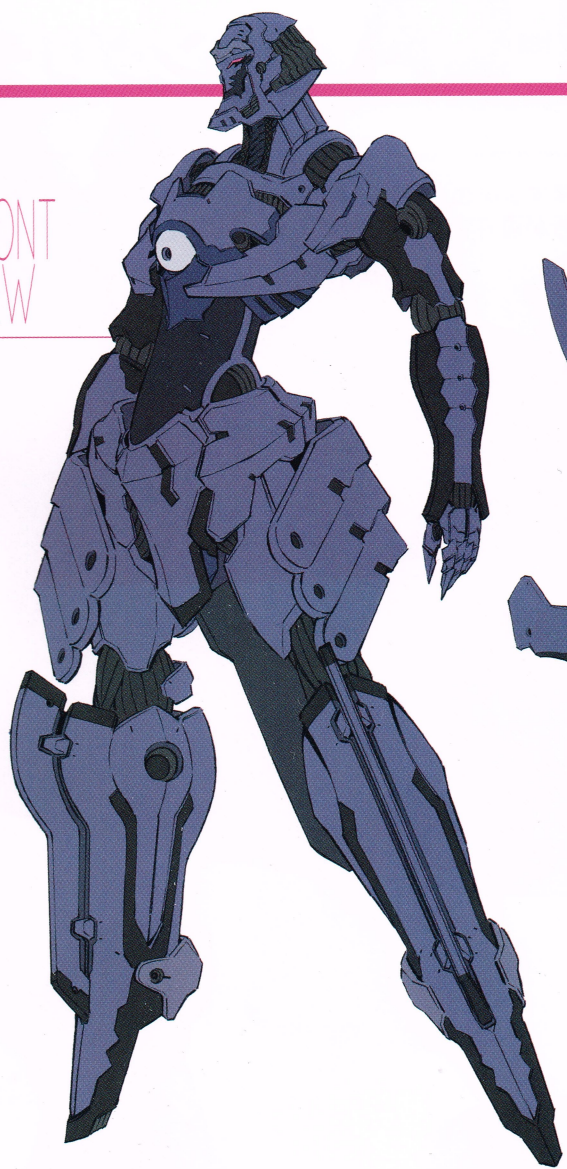
艦第一 橋

巨大な頭部には本来、司令塔であり全機能を管理する第一艦橋も存在しているが、余程のことがない限り、久嵩自身が赴くことはない（通常、シャングリラ自身が機体を制御・管理している）。そのため、普段は司令塔下に見える第二艦橋が発令所として機能している。

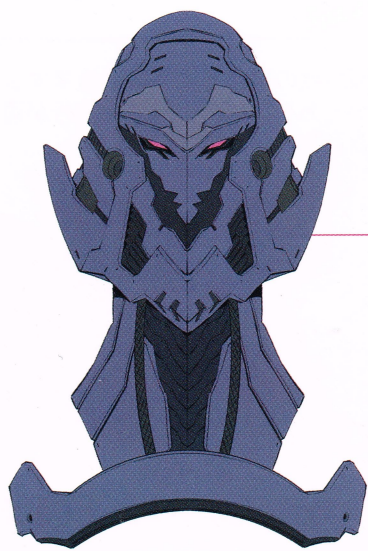
1st BRIDGE

七支刀

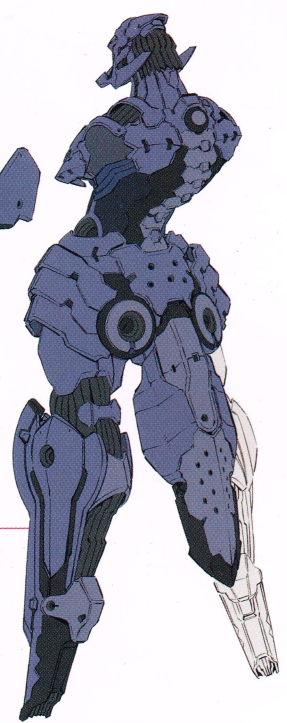
FRONT
VIEW



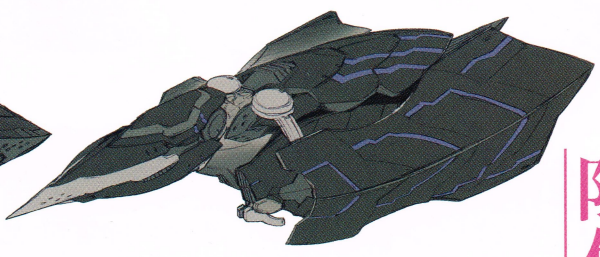
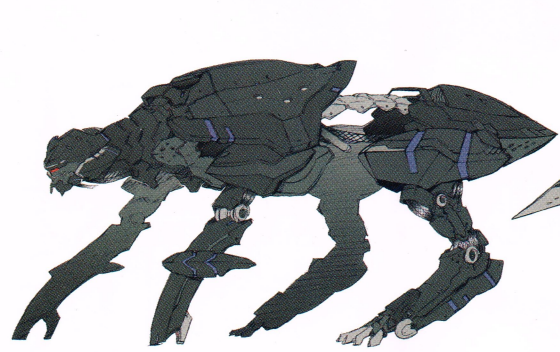
HEAD



REAR
VIEW



九条美海の操るマキナ。独立型遠隔操作兵器である随伴機、獣型（パルド）と鳥型（ロック）を従えている。基本的な仕様は桐山栄治の操るプリテンダーが持つ無線ナーブクラックと同様だが、そのスペックや建造理念などは比較にならない代物である。基本的には本機（ファクター）からの命令で機能するそれら随伴機は、単体での戦闘は勿論のコト、両機ともあらゆる戦況に応じたペインキラー用の兵装を豊富に備えている。



随
伴
機
PALD & ROC

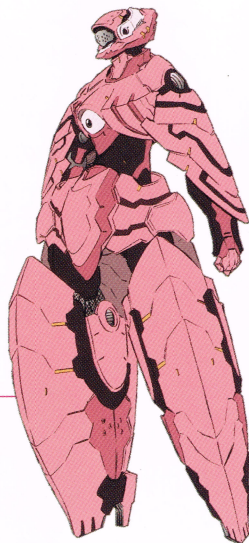
PAINKILLER

ペインキラー

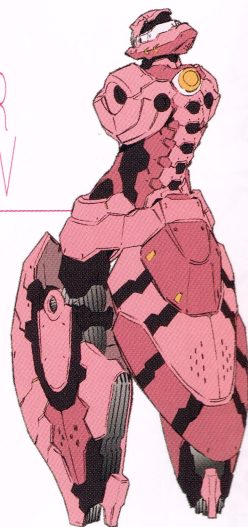
偽装体

ARMED MODE

ペインキラーが本来の姿を隠すため、増加装甲を纏った姿。しかし、この世界ではその姿を隠す必要がないため、本来の機能としてではなく美海の演出に利用されてしまった。



REAR VIEW

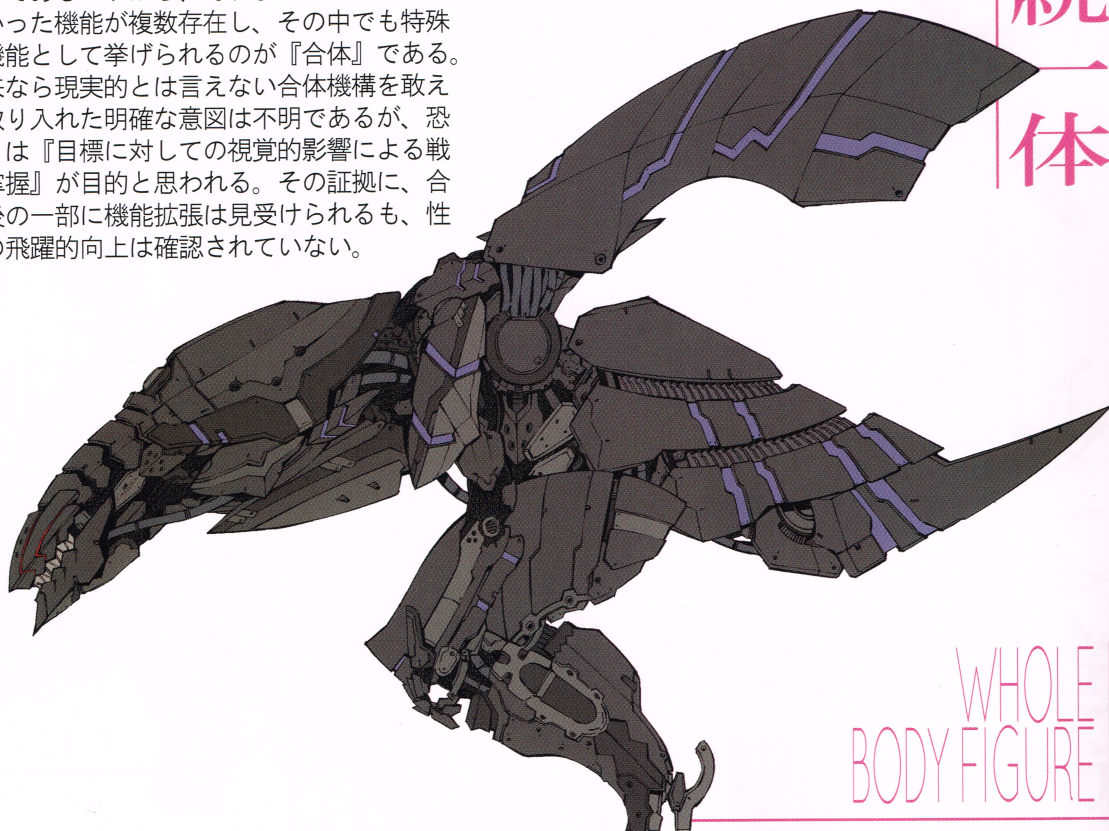


FRONT VIEW

ENIGMA SYSTEM

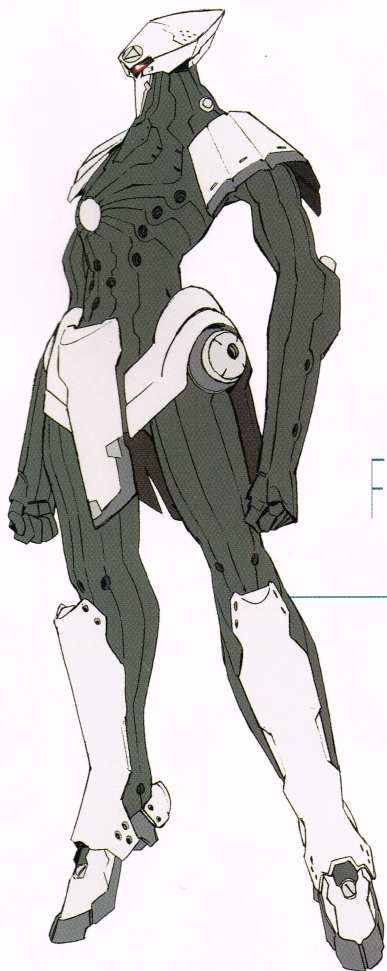
ペインキラーとその随伴機（パルド・ロック）が合体した形態。本機は実験的に開発された機体であるコトから、それまでのマキナには無かった機能が複数存在し、その中でも特殊な機能として挙げられるのが『合体』である。本来なら現実的とは言えない合体機構を敢えて取り入れた明確な意図は不明であるが、恐らくは『目標に対しての視覚的影響による戦場掌握』が目的と思われる。その証拠に、合体後の一部に機能拡張は見受けられるも、性能の飛躍的向上は確認されていない。

有機統一

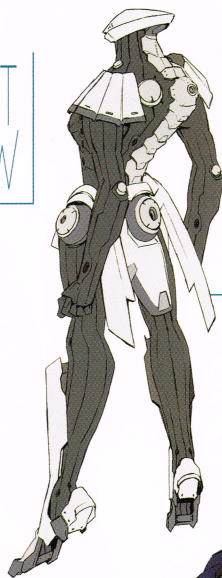


WHOLE BODY FIGURE

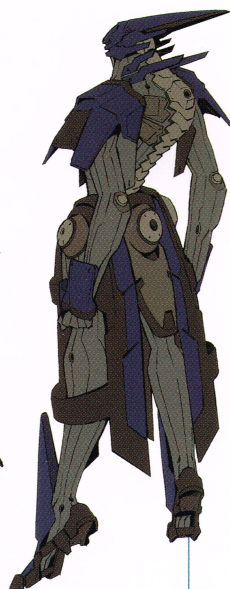
加藤機関が造り上げたマキナの量産コピー機。オリジナルの持つ脳、固有ナノマシン、それに伴う効果や能力は所持せず、あくまでも人型兵器としての側面のみをコピーした機体である。そのためマキナとファクターの関係性のようなものは存在せず、パイロットは自身の各神経に直接、特殊な針を打ち込み、そこから電気信号を送ることで機体を制御している。また、機体全身をゴム状の表皮で被い、外部装甲が少ないこともアルマの特徴である。ちなみに各部隊長は一般機との差別化の意味も含め、カスタマイズされた機体になる。



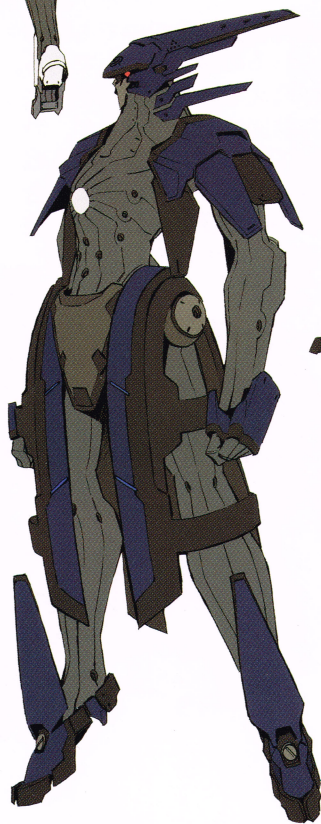
FRONT VIEW



REAR VIEW



REAR VIEW



FRONT VIEW

通常アルマを沢渡専用にカスタマイズした機体。通称『イダテン』。通常アルマとの大きな違いは、基本スペックの向上は当然ながら、外見的に大きく分けて、頭部、肩部、腰部アーマー、脚部の四点。改修点はどれも沢渡機の機動力を向上させ、高速移動並びに高速戦闘を想定したものである。腰部両サイドアーマー裏面にマルチブースターユニットを前後に二基、両サイドで計8基搭載し、ジェット推進を可能にしている。また基本武装として各ハードポイントに太刀、アサルトライフル（タネガシマ）を装備し、加えて沢渡部隊の専用として槍（一闪）を持つ。

イダテン

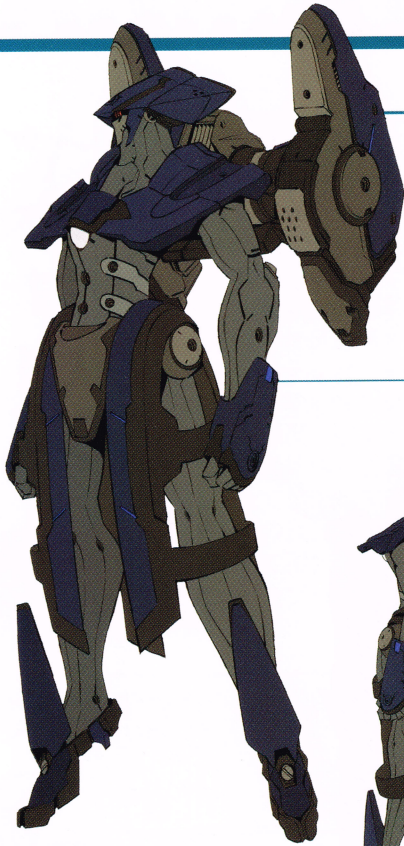
ARMA IDATEN

イダテン 弐之型

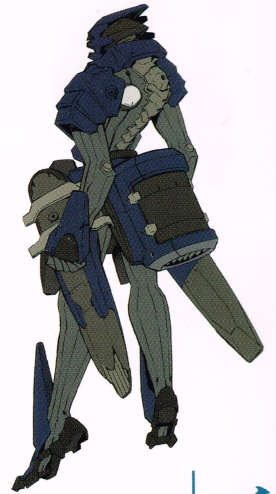
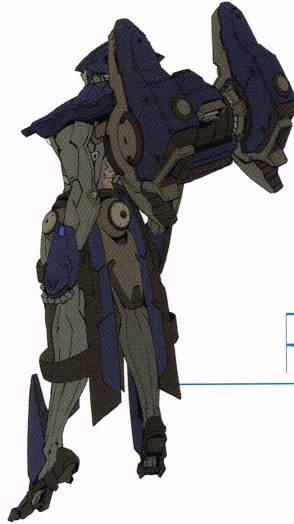
ARMA IDATEN Ver.2

ラインバレルとの戦闘により大破したイダテンに変わり、新たに沢渡専用として造られたイダテン弐番機。一目で判るとおり、背面に大型ブースターを二基配し、加えて、頭部、胸部、手甲や素体を被う表皮も新たなものに変更され、更に機動力を向上させた機体である。また、後継機として参之型も存在していたが、この機体は可変型アルマの実験機であり、正式な機体としてはカウントされていない。

FRONT VIEW

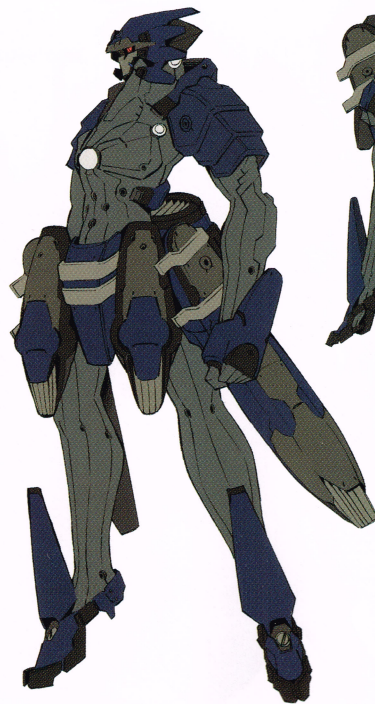


REAR VIEW



イダテン 四之型

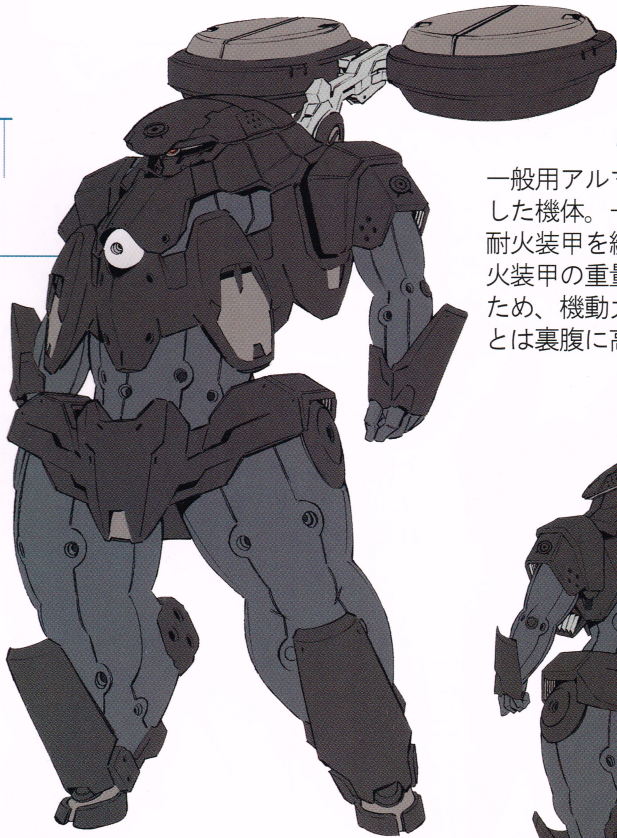
ARMA IDATEN Ver.4



ARMA PROTOTYPE IDATEN

イダテン 零之型

FRONT
VIEW

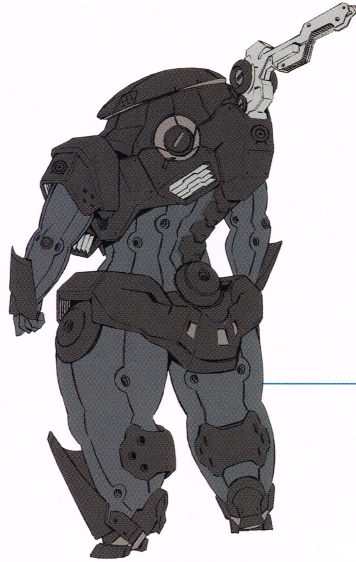


ARMA YAORYOROZU

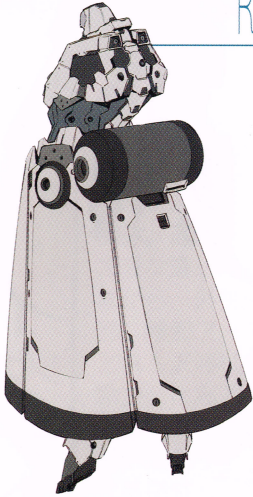
一般用アルマを王政陸専用カスタマイズした機体。一般用アルマとの大きな違いは耐火装甲を纏ったその巨体である。この耐火装甲の重量による機体性能の低下を補うため、機動力を最大に高めており、見た目とは裏腹に高速移動も可能としている。

ヤオヨロズ

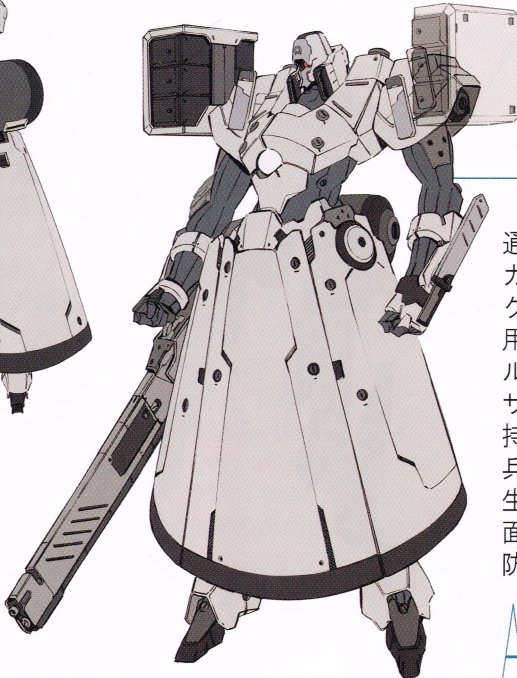
REAR
VIEW



REAR
VIEW



FRONT
VIEW



通常のアлмаをデミトリー専用カスタマイズした機体。通称『カグツチ』。本機は主兵装として専用の重機関銃、両肩に連装ミサイルを2基、左腕部に大型ナイフ、サイドアーマーにタネガシマ改を持つ重武装の機体である。これら兵装により、動きに相当の制限が生まれてしまうため、本機は装甲面にも改良が加えられ、高い装甲防御力を持つ。

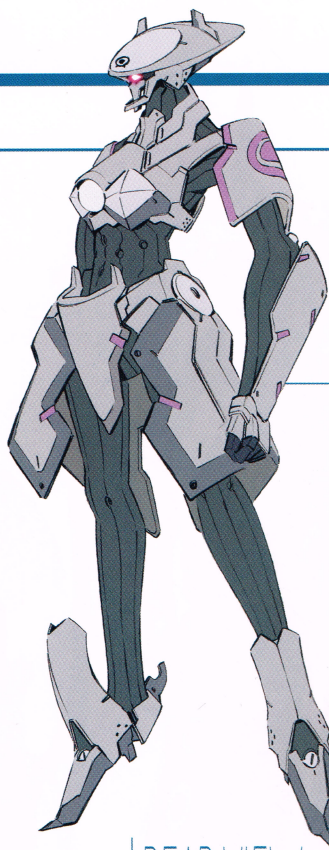
ARMA KAGUTSUCHI

カグツチ

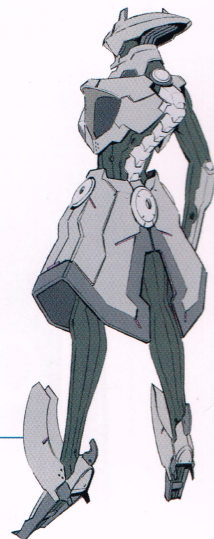
ツバキヒメ

ARMA TSUBAKIHIME

一般用アルマをユリアンヌ専用カスタマイズした機体。これまでのアルマとの違いはその小型且つ女性的なシルエットだが、これはユリアンヌが加藤機関唯一の女性隊長であることに加え、彼女の戦闘スタイルを反映させた故である。沢渡のイダテンが速度重視であるなら、本機は軽快さ重視の機体だと言え、瞬発的な行動速度は全てのアルマを上回る。主武装は部隊専用の長刀（不知火）とツバキヒメ専用として腰部両サイドアーマー内に小型チェーンソー（クビキリ）を持つ。



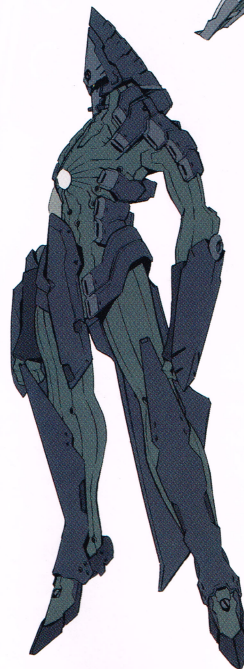
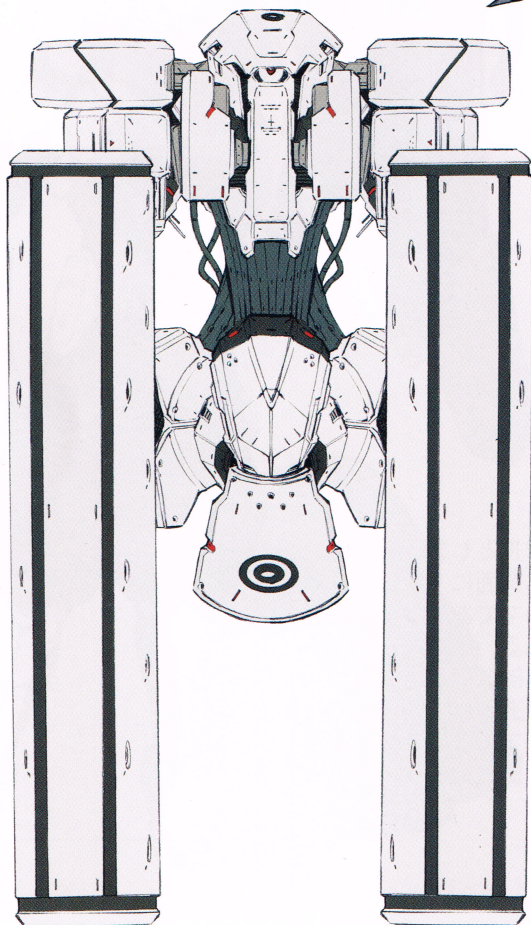
FRONT
VIEW



REAR VIEW

カガセオ

ARMA KAGASEO



ARMA TSURANAGI

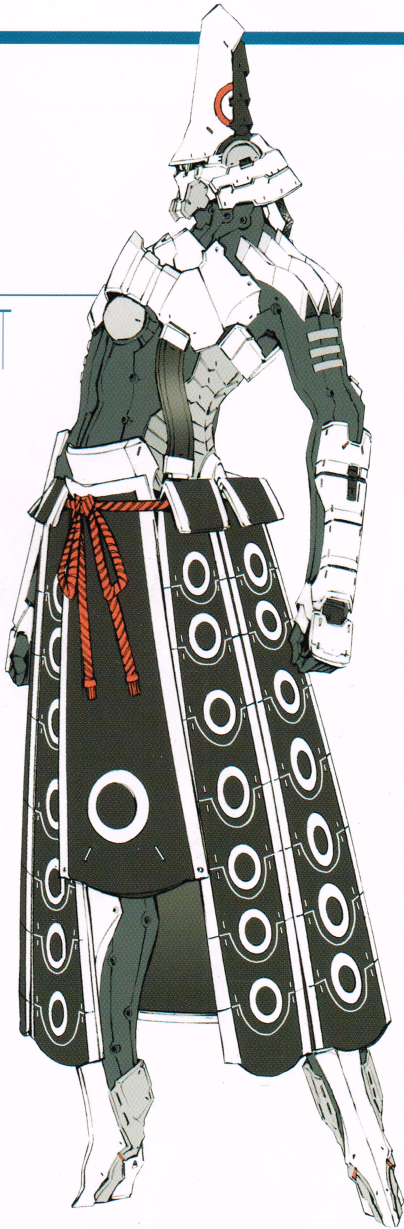
ツラナギ

ARMA TSUKUYOMI

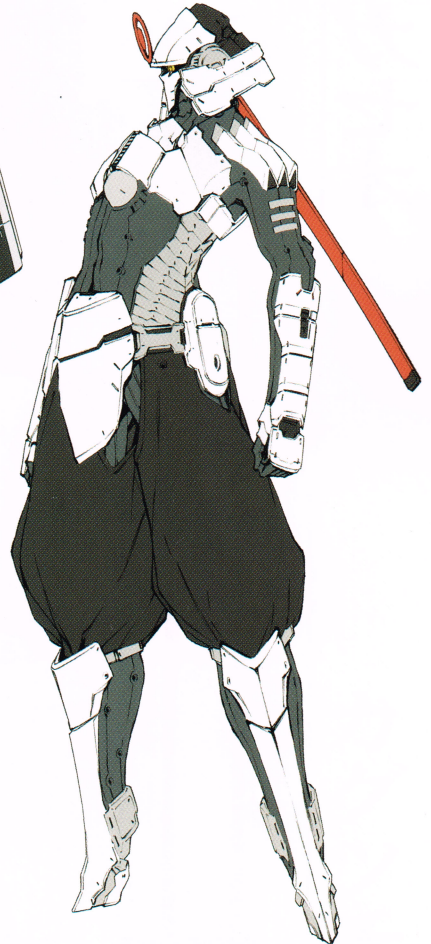
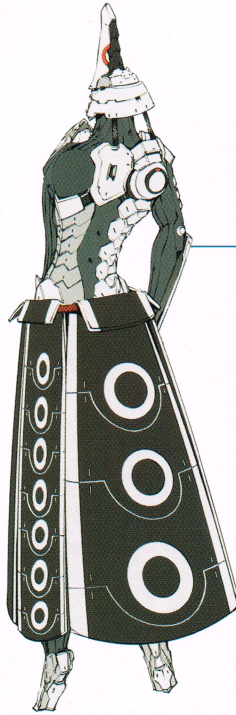
ツクヨミ

加藤機関総司令である加藤久嵩の専用アルマ。主に、これまで行われてきたであろう対マキナ戦にて使用されていたと思われる。主武装は手斧。

FRONT VIEW



REAR VIEW



加藤機関在籍時、私設部隊一番隊隊長として活動していた石神の専用アルマ。主武装は機体背面にマウントされた太刀。本機は加藤久嵩の専用アルマであるツクヨミの予備機を石神用に改修した機体である。その為、頭部や胸部等を除けば、機体シルエットはほぼ同じであり、スペックも同等のモノを有している。造られてからすでに半世紀以上経過しているが、元よりアルマは完成した機体であった為、現在の最新アルマと比較しても、ツクヨミやスサノオが劣るコトはない。

スサノオ

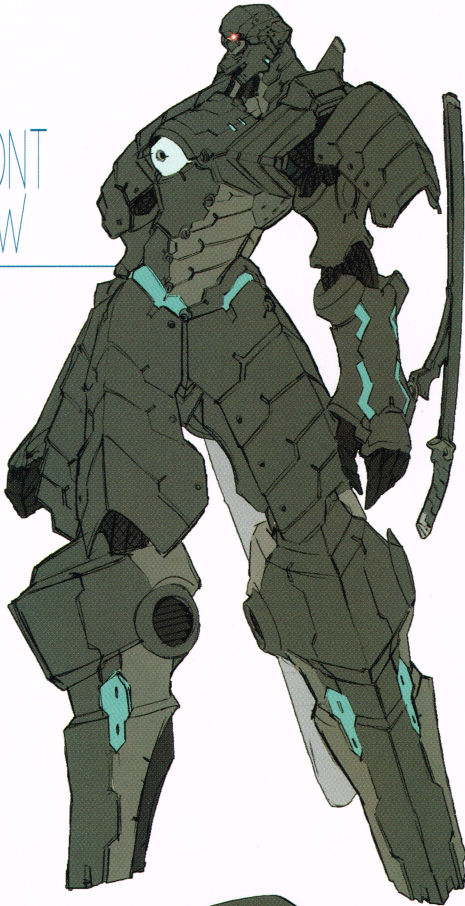
ARMA SUSANO-O

新型アルマ (量産型マキナ)

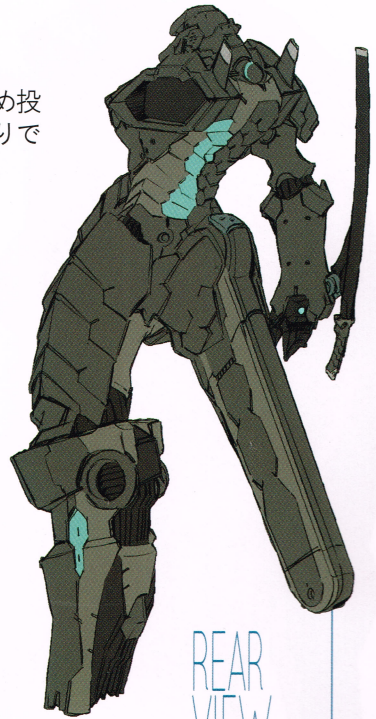
PARA MACHINA

加藤久嵩が直接関わり造り上げ、城崎天児の覚醒のため投入した新型アルマ。実際のところ、アルマとは名ばかりであり、正確には電腦が搭載されていないマキナである。

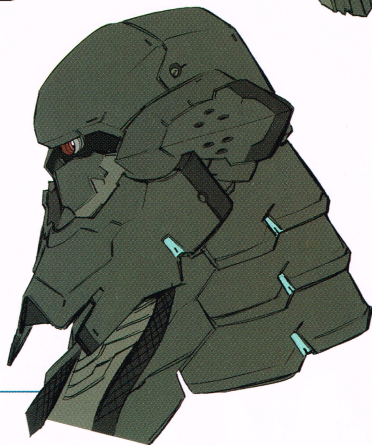
FRONT
VIEW



REAR
VIEW

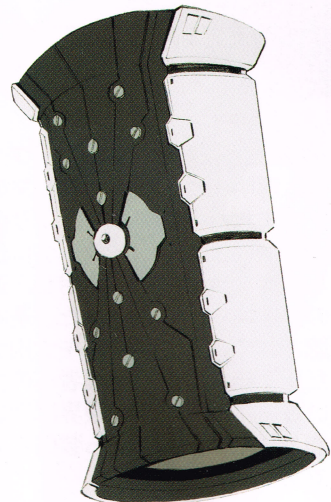


HEAD

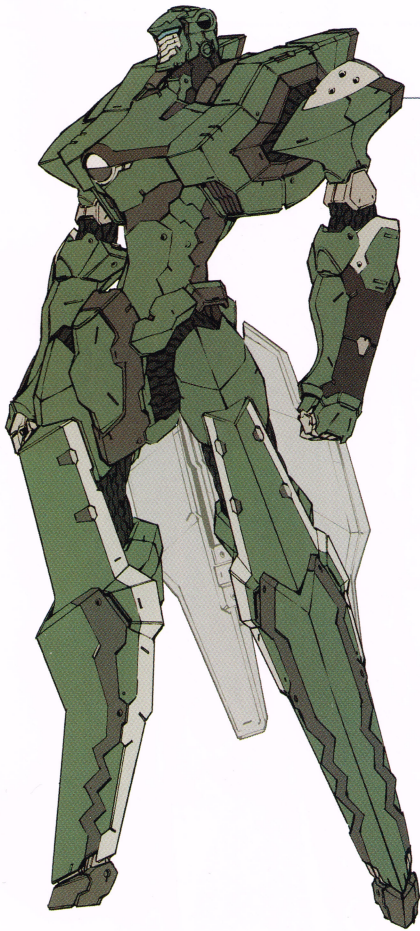


AUTONOMOUS DEFENSE ARMA

自律型防衛アルマ

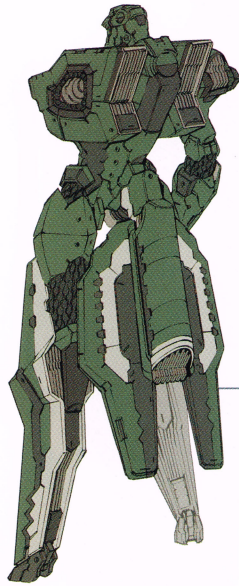


ジンライ JINRAI



FRONT
VIEW

本機は当初、キリヤマ重工の手により生まれたが、同社がJUDAに吸収されたコトにより、人型戦闘機のコンセプトはそのままに、同社とジュダ技術開発部の手により更なる改修が加えられ、石神の云う所である『マキナ』として生まれ変わった機体である。

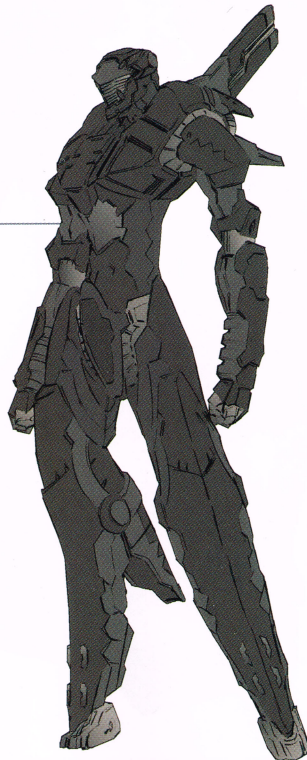


REAR VIEW

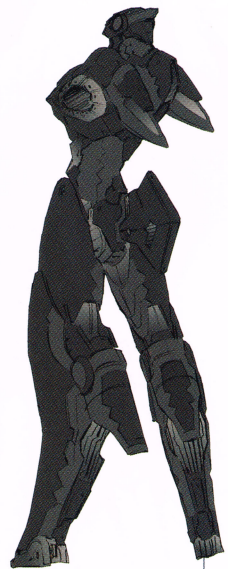
初期型 迅雷

HFX-19 JINRAI

本機は桐山栄治のマキナ、プリテンダーから解明された技術とアルマの技術により生まれた機体である。プリテンダーの持つ無線式ナーブクラックに使われている高度な無線技術を応用し、遠隔操作作用の無人機として造られた。基本兵装は確認されている限り対マキナ用ナイフのみだが、無人機故に搭乗者への負荷等が無いいため、機体性能の限界に近い動きを可能としていたコトから装備としては十分であったのだろう。



FRONT
VIEW



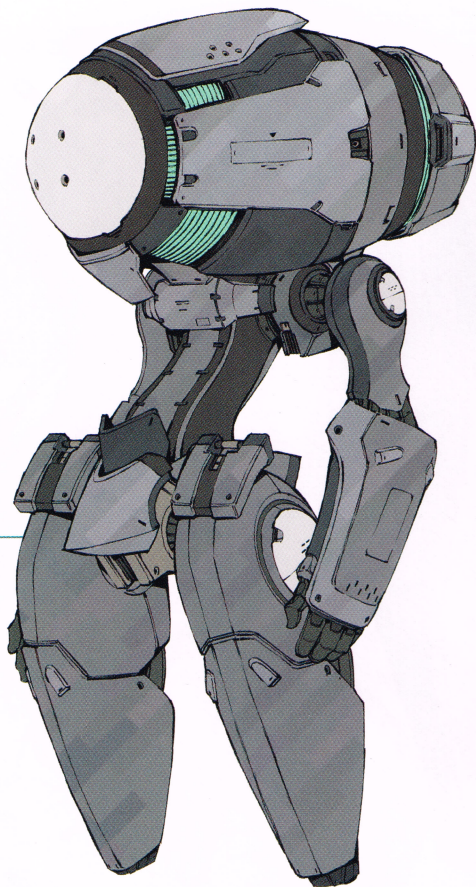
REAR
VIEW

PALADIN パラディン

ルーベンス財団主導の元、米海軍兵器研究所で開発された対マキナ用パワードスーツ（製造そのものは、ハワイ沖にある宇宙エレベーター用プラットフォームとして建造された巨大施設で行われた）。

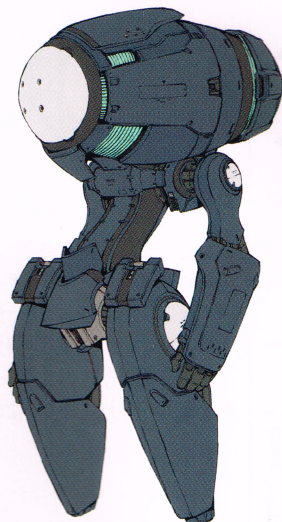
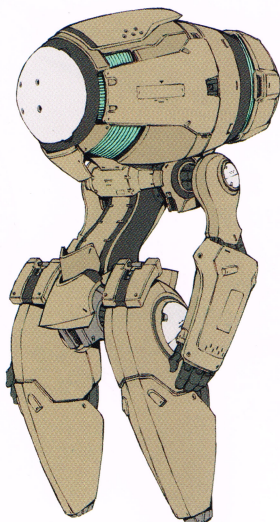
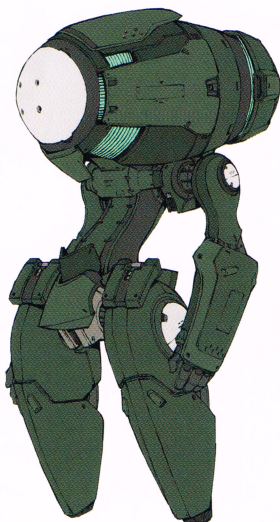
各種兵装に加え、隊長機には識別の意味も含めた、大型のブレード兼アンテナが機体側面に付けられている。主武装のレールガンでは、マキナの固有ナノマシンを破壊し、有機構成部を瞬時に壊死させる効力を持つ特殊弾を使用するコトで、小型機体でありながらも十二分にマキナに対抗する力を有している。

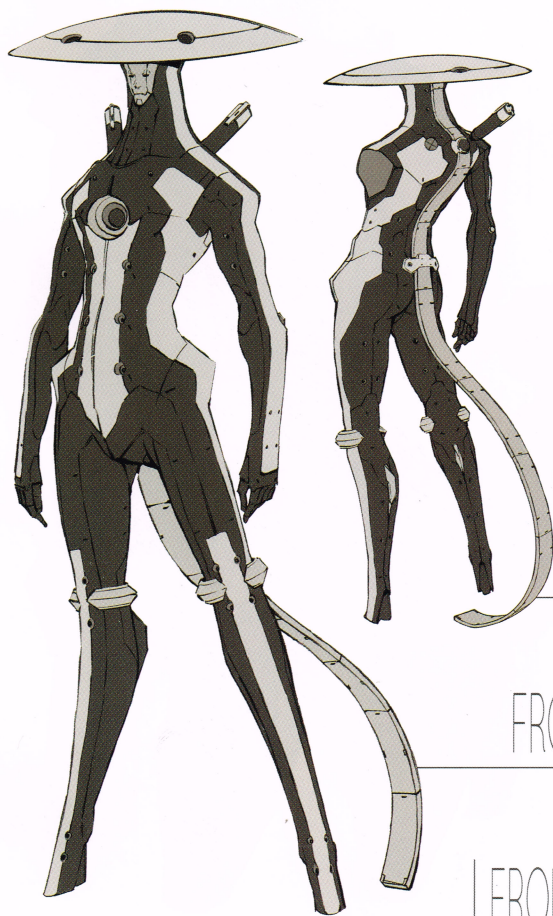
FRONT
VIEW



カラー
パターン

FOLIAGE / TAN / NAVY





HUMANOID type B

概念的人間となったマキナの中で、最も多くの数が確認されている個体。戦闘では主に口内と掌にあるビーム兵器と手甲に収納されたブレードを使用する。乙型の特徴として、まず頭頂部の円盤が挙げられる。この円盤部の内側にフィールド発生機があり、状況に応じて本体を転送、出現させる。機動性の高い円盤状態で目標への接近～攪乱から、本体を転送させての白兵戦といった戦い方を基本としている。

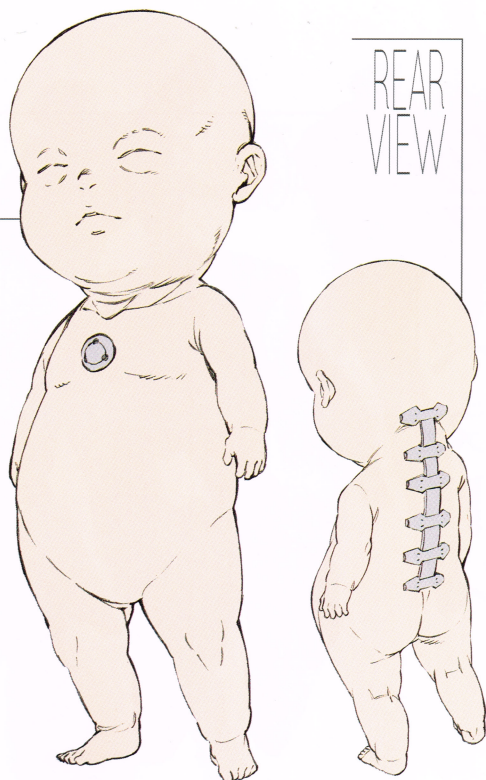
REAR VIEW

FRONT VIEW

ヒトマキナ乙型

FRONT VIEW

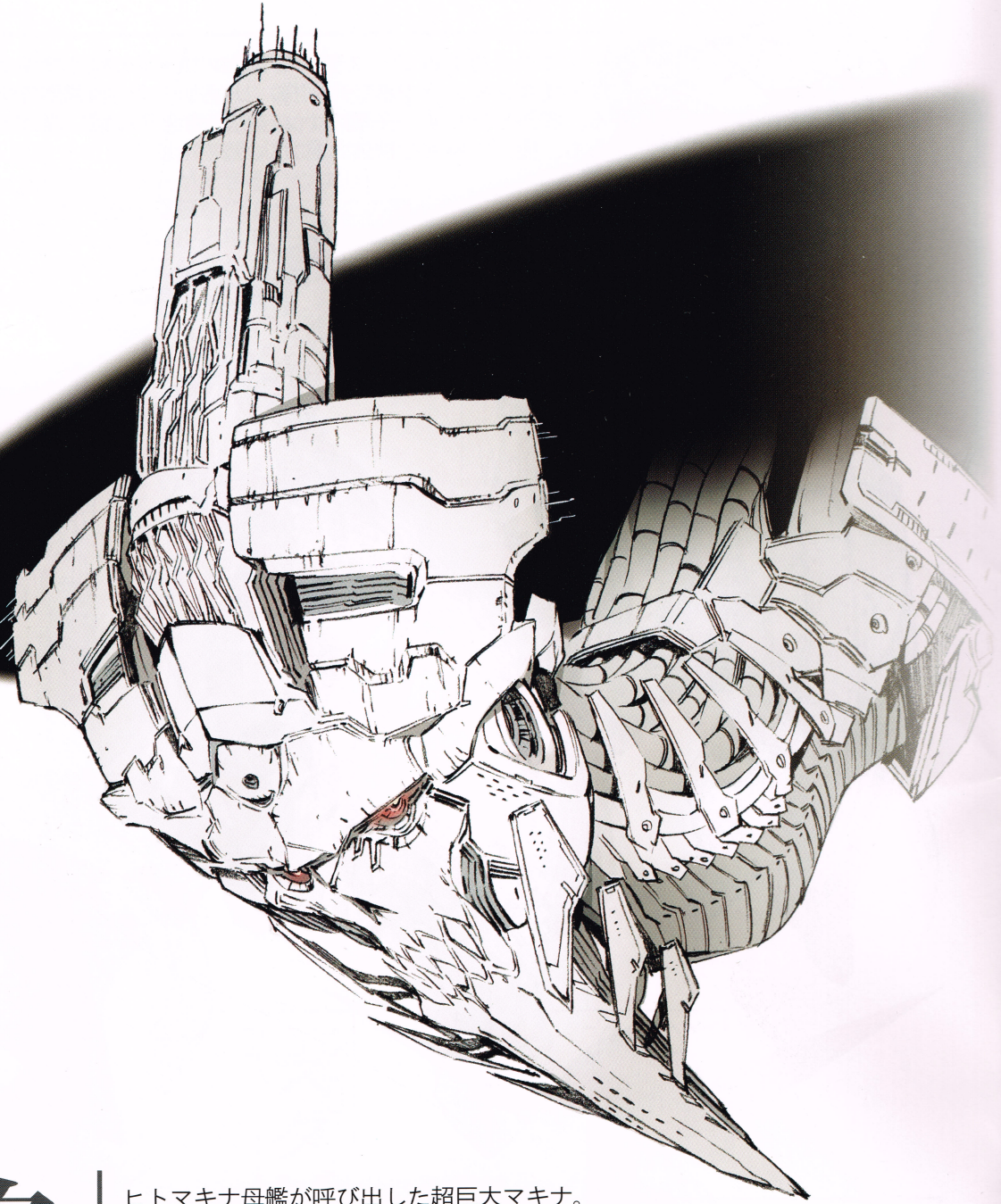
REAR VIEW



HUMANOID type C

人間の乳児を模した個体。乳児を模した姿をしているコトから、この丙型は明らかに『対人類用』のヒトマキナとして生みだされたモノであろうと推測できる。乙型の様に自ら転送するコトも出来ず、頭部にある拡散ビーム以外、これといった特別な機能を持たないが、巨大な乳児という、その見た目こそが最大の特徴であり、武器なのである。

ヒトマキナ丙型



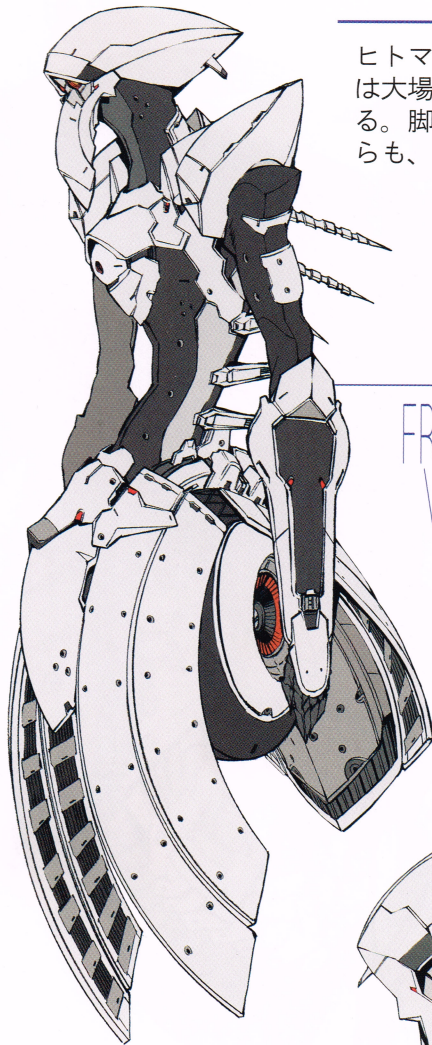
終焉

ヒトキナ母艦が呼び出した超巨大マキナ。転送中に母艦が破壊された為、その全貌を見せるコトはなかった。真来梓曰く「全部で3機あったはずですから、まだ2機も残ってますよー!!」らしい。

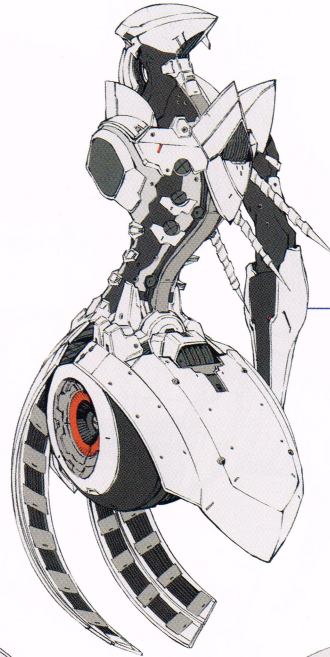
DEATH

レイル・スプリッター THE RAIL-SPLITTER

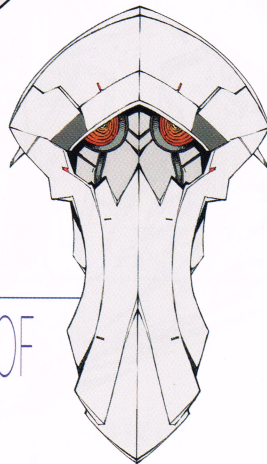
ヒトマキナであるエイブラハム・リンカーンの操るマキナ。本機は大場真来梓のラヴバレル同様、リンカーンの戦闘用外骨格である。脚部を持たず、多量のナノマシンを全身に纏い漂うその姿からも、極めて特異な機体と言えよう。



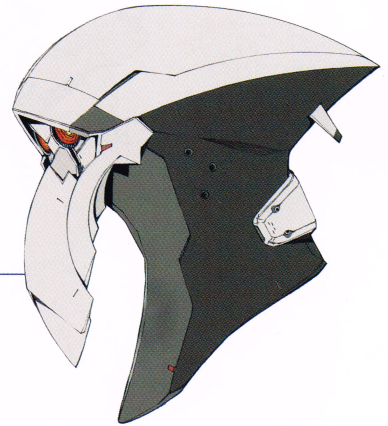
FRONT VIEW



REAR VIEW



FRONT OF HEAD



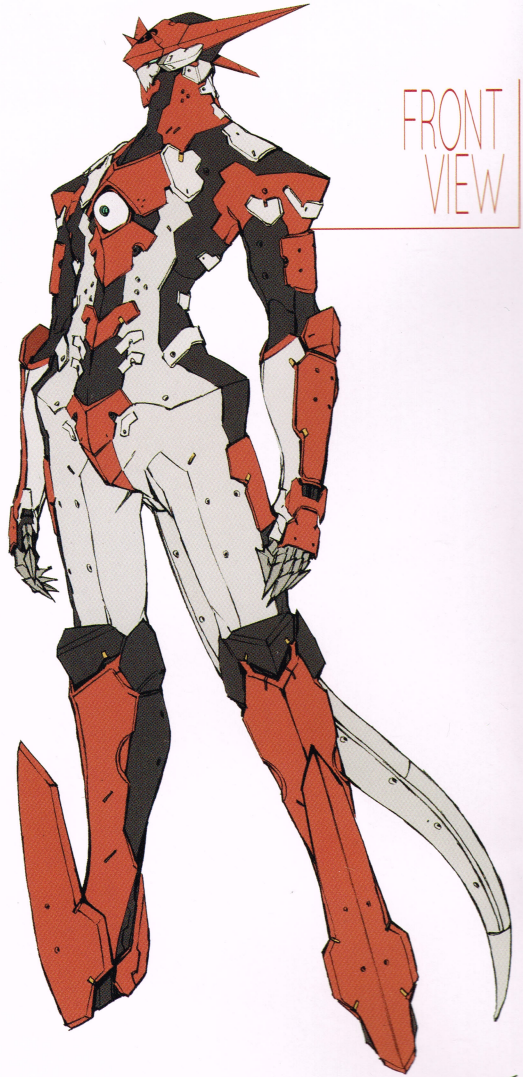
SIDE OF HEAD

本機の最大にして唯一の兵装がナノマシン兵器である。股間に位置する球体型転送機から射出されるナノマシンは、背面両側に見えるドリル状の制御針により、黒い煙を纏っている様な状態を保ち、自由軌道で目標を攻撃する。本来、ナノマシンに触れられた部分は瞬時に破壊消滅し、後には何も残らないが、攻撃対象を確実に認識している為、一定の空間を覆い尽くす程の展開をさせても周囲への影響は無い。しかし、言い換えるなら、攻撃対象を一定の空間にした場合には、その空間内にある物質は全て一瞬にして消滅させられるというコトである。現時点でこのナノマシン兵器に対抗しうる術は存在しない。上記以外の詳細なスペック等に関しては機体が完全に破壊された為に不明。

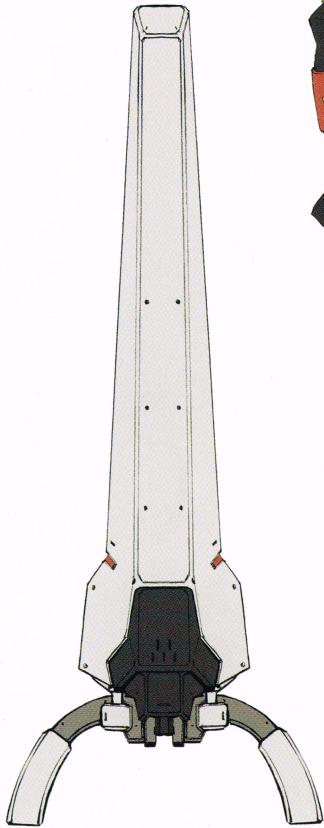
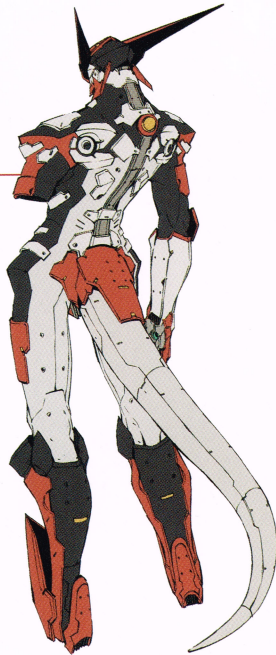
ROVE BARREL ラヴバレル

ヒトマキナである大場真来梓の操るマキナ。本機は大場真来梓本人の発言通り、彼女の戦闘用外骨格である。これはマキナの擬似的な意思ともいえる思考を司る電脳が搭載されていないコトからも、窺い知るコトができる。つまり、大場真来梓こそが本機の電脳なのである。この関係性は現在のラインバレルと早瀬浩一のソレと同様であり、困ってラインバレルも早瀬浩一の戦闘用外骨格と言えるのかもしれない。

FRONT
VIEW



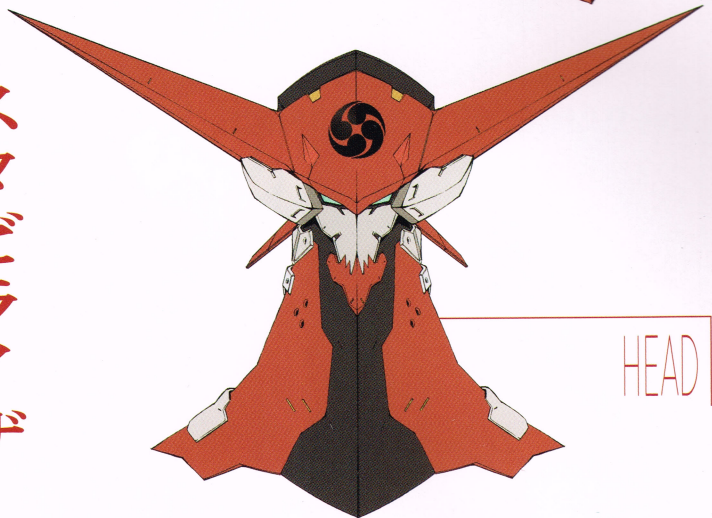
REAR VIEW



BOW-STABILIZER

スタビライザ

HEAD





LINEBARRELS MECHANICS

想像せよ、少年!!

SHIMIZU FEICHI × SHIMOGUCHI TOMOHIRO
LINEBARRELS

少年が正義の力を得たとき、世界が激変する!



漫画史上最大のSFメカ超大作!



清水栄一 × 下口智裕



最新巻はヒトマキナ。
リンカーンが目印!!

最新コミックス第23巻

第0巻～第22巻大好評発売中!! 定価:本体各552円(税抜)

アニメBOOKも絶賛発売中!! 定価:本体800円(税抜)

チャンピオンREDコミックス B6判 発行/秋田書店



LINEBARRELS MECHANICS

LINE BARREL
LOST BARREL
VERDANT
HIND-KIND / APPARITION
DECEIVE / TALISMAN
PRETENDER
GLAIN-NEIDR
JUDA / SHANGLI-LA
PAINKILLER
ARMA
JINRAI / PALADIN
HUMANOID
THE RAIL-SPLITTER / ROVE BARREL